



# 新・水とみどりのネットワーク構想



平成20年 5月  
品川区

# はじめに



「水」と「みどり」は、言うまでもなく、人の暮らしに必要不可欠なものです。また、まちで身近に親しめる「水」や「みどり」は、都市のなかで季節の移り変わりを伝え、生活に憩いや安らぎをもたらしてくれる存在でもあります。

品川区はこれまで、昭和63年に策定した「品川区基本構想」で掲げた目標「平和で活力ある緑ゆたかな住みよいまち」の実現に向け、しながわ区民公園や立会川緑道、しながわ中央公園、東品川海上公園などの整備を通じて、まちの貴重な財産である「水」と「みどり」を効果的に結ぶ努力を続けてきました。

そしてこのたび、この「水」と「みどり」という二つの資源をさらに有効に活用していくために、「新・水とみどりのネットワーク構想」を策定しました。

本構想は、新しい「品川区基本構想」で掲げた「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」という将来像の実現に向けて、「水」と「みどり」を憩いややすらぎをもたらすものとしてだけでなく、観光・交流や環境改善、防災など多角的な機能をもった資源としてとらえ、それらを有効に利活用していくことを通して、自然を身近に感じ、自然を守り育てる心を育んでいくことを目指しています。

今後、この構想で示した基本方針に基づいて、区民、事業者、区がそれぞれの立場から連携を深め、「水とみどりがつなぐまち」の実現に向けて努力してまいりたいと思います。

水とみどりの豊かな品川区をつくるため、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

この構想の策定にあたり、ご意見をいただきました区民の皆様に心からお礼申し上げます。

平成20年5月

品川区長 濱野 健

## 新・水とみどりのネットワーク構想 目次

1. 「新・水とみどりのネットワーク構想」策定にあたって .....	1
1.1 まちづくりと「水とみどりのネットワーク」 .....	1
1.2 「水とみどりのネットワーク」見直しの視点 .....	4
1.3 「新・水とみどりのネットワーク構想」の位置づけと役割 .....	6
1.4 「新・水とみどりのネットワーク構想」の目標像 .....	9
1.5 「新・水とみどりのネットワーク構想」の内容と構成 .....	10
1.6 計画策定と住民参加 .....	11
2. 品川区の現状と課題 .....	12
2.1 品川区の概要 .....	12
2.2 「水とみどりのネットワーク」の把握・分析 .....	19
3. 策定方針 .....	22
3.1 取り組み方針 .....	22
3.2 施策の展開 .....	25
4. 基本方針 .....	29
4.1 「新・水とみどりのネットワーク構想」の基本的な考え方 .....	29
4.2 総合的なネットワーク整備方針 .....	34
4.3 「新・水とみどりのネットワーク構想」の目標 .....	35
5. 区民の皆さんとともに .....	36
6. 施策の展開 .....	39
6.1 施策の体系 .....	39
6.2 主要プロジェクト .....	41
6.3 施策の機能別展開 .....	46
6.4 施策の地区別展開 .....	55
7. 施策の推進 .....	75
7.1 施策の推進方針 .....	75
7.2 推進体制について .....	77
7.3 施策の推進 .....	78
7.4 進捗状況・目標達成の確認方法 .....	80

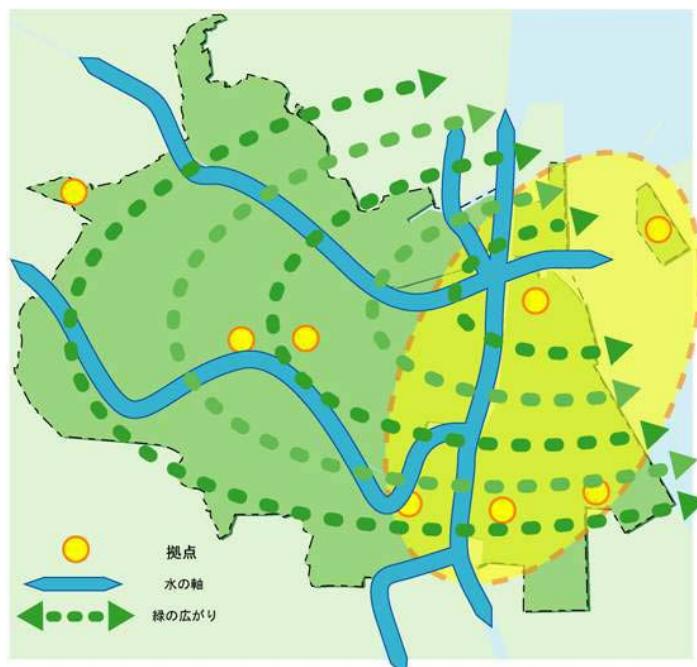
## 1. 「新・水とみどりのネットワーク構想」策定にあたって

### 1.1 まちづくりと「水とみどりのネットワーク」

品川区の地形は、東京湾に面した臨海部と、山の手に連なる台地によつて形成されています。

その中で、山の手から海に向かって流れる目黒川・立会川が「水の軸」を形成しています。また、臨海部は大規模な公園や広場、街路の植樹帯が充実している一方、山の手側は街区公園や住宅の庭など、小規模な樹木によって「みどりの広がり」が形成されています。

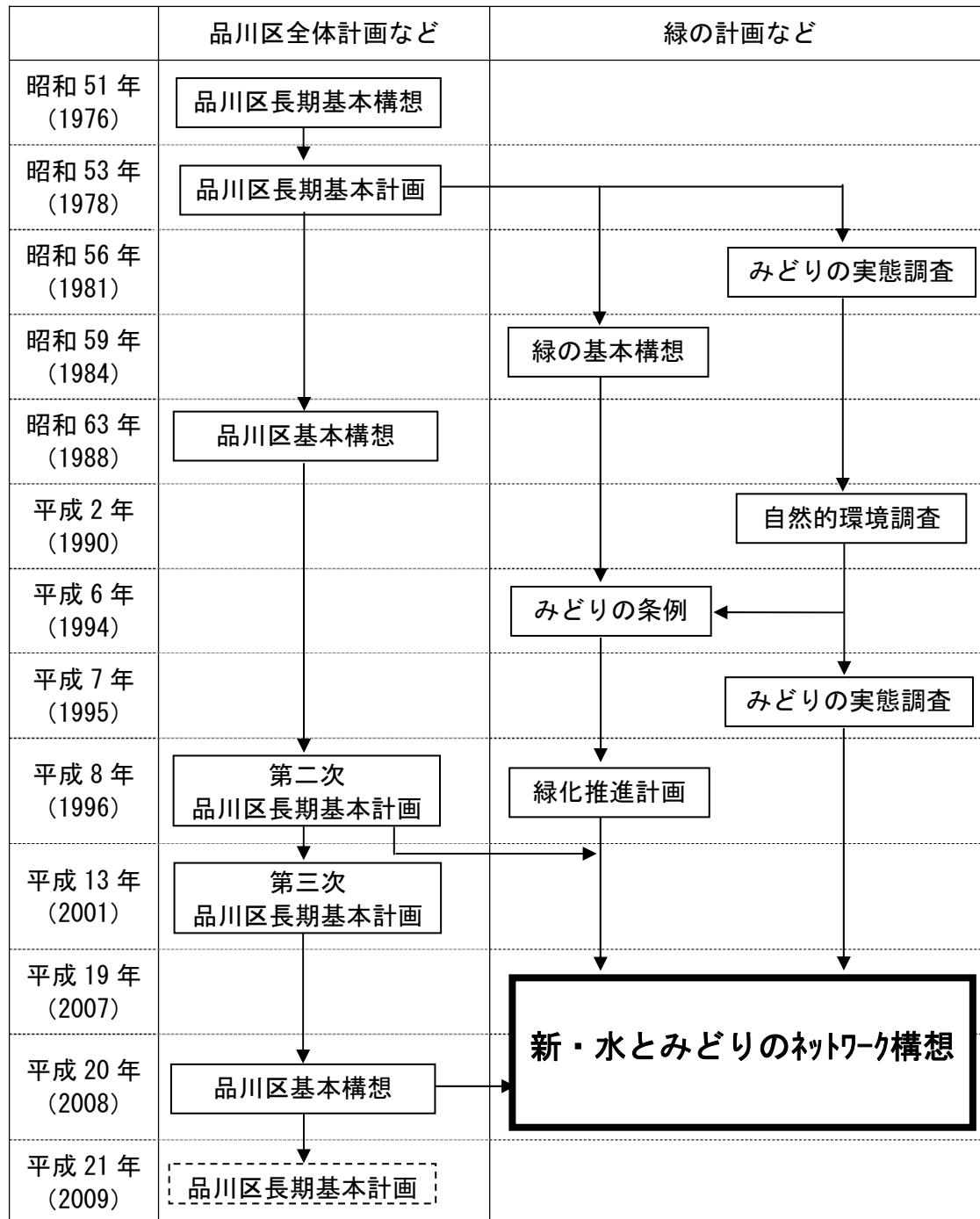
みどりの量や質は均一ではありませんが、再開発の進む湾岸部から密集市街地の残る山の手側にみどりが広がりつつあります。



【品川区における水の軸とみどりの広がりのイメージ図】

品川区のまちづくりを考える上で、親水空間と緑地は「まちの骨格」を形成する大切な要素であり、区民に憩いや潤いなどをもたらす重要な要素であるといえます。

そこで品川区は「基本構想」などにおいて「水とみどりのネットワーク」づくりを掲げ、様々な施策と連携を図りながら、「水の軸」や「みどりの広がり」を連携させたまちづくりに取り組んできました。



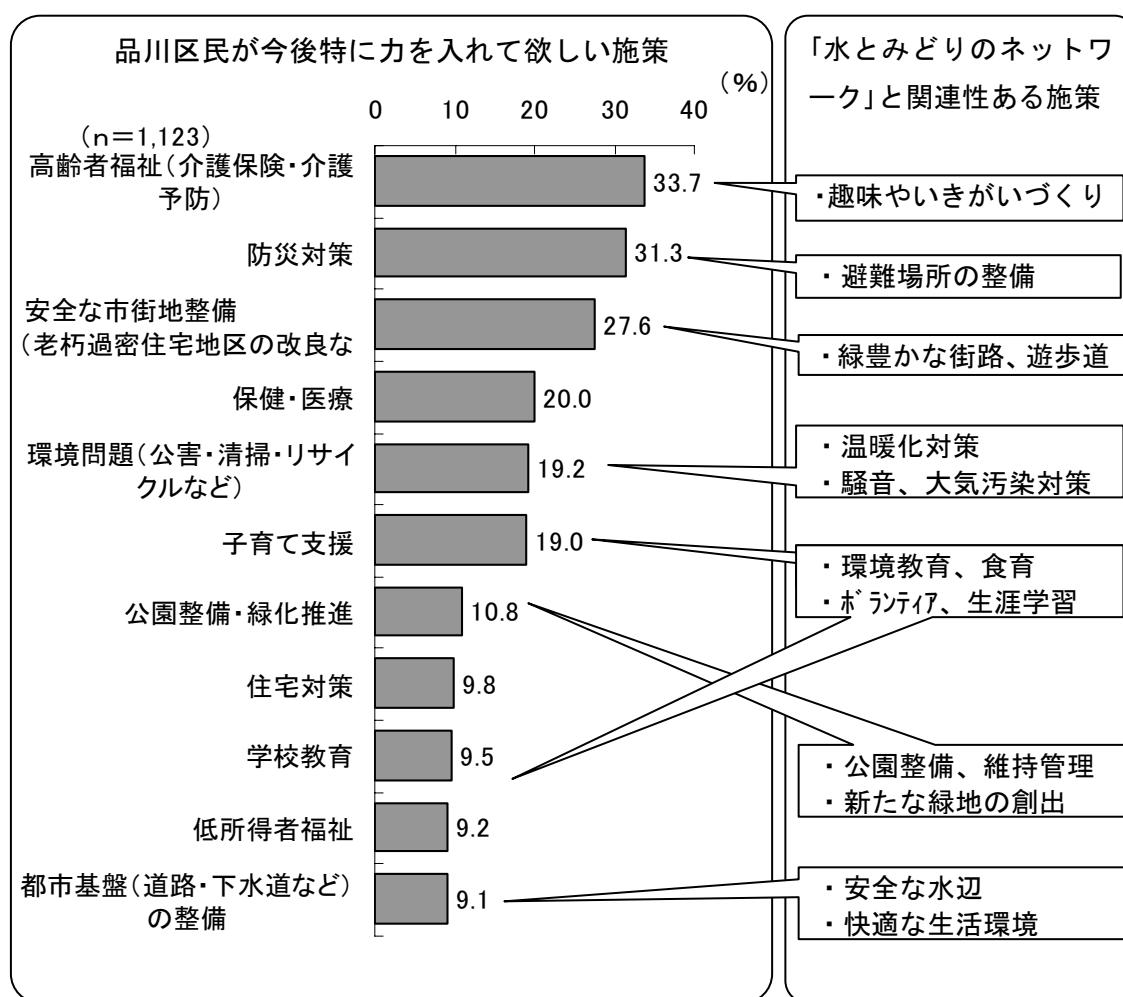
「水とみどりのネットワーク」は、品川区のみどりの重要な施策の一つとして昭和 53 年策定の『品川区長期基本計画』において原型が示されました。

それ以降、『第二次長期基本計画』『第三次長期基本計画』が策定されるたびに時代ごとの区民のニーズを捉えて少しづつ形を変えながら発展してきました。

## 【品川区基本構想と「水とみどりのネットワーク」】

第17回品川区世論調査(2006年12月)において、区民が今後、特に力を入れてほしい施策として、「高齢者福祉（介護保険・介護予防）」や「防災対策」「安全な市街地整備」をあげた区民が3割ほどいました。それ以外にも「水とみどりのネットワーク」に関する施策が多くあげられています。

この結果からもわかるように、まちづくりを考える上で、安全性や快適さの向上や余暇の充実などを図るために「水とみどりのネットワーク」と連携した施策の展開が重要となっています。



【第17回品川区世論調査：特に力を入れてほしい施策】

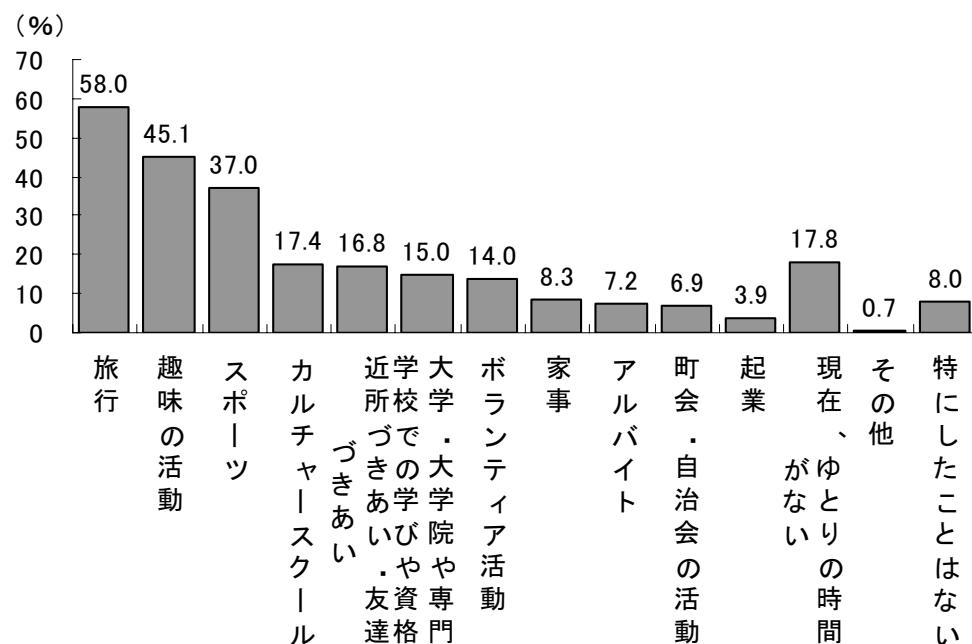
## 1.2 「水とみどりのネットワーク」見直しの視点

品川区の「水とみどりのネットワーク」づくりは、親水空間や緑地を創出するなど、施設整備を中心に取り組んできました。

しかし近年、温暖化や少子化高齢社会の到来など、地球レベルで社会・経済情勢が変化する状況の中、区民が水やみどりに求める役割が多様化しています。

その傾向は、第17回品川区世論調査にも現れています。区民が、ゆとりの時間に取り組みたいことは、「旅行」が58.0%で最も多く、次いで「趣味の活動」(45.1%)、「スポーツ」(37.0%)などの順番となっています。

(n=1,123)



【第17回品川区世論調査：ゆとりの時間に取り組みたいこと】

こうした余暇の時間を充実する上で、身近な水辺やみどりは、都市部の住民に季節変化を感じさせ、生活に潤いや安らぎを与えてくれます。併せて、レクリエーションの場として、健康づくりの場として、災害から区民の生命を守る場としての役割を果たすことが求められるようになってきています。

また、水やみどりは、都市部の気温が上昇するヒートアイランド現象の緩和や二酸化炭素の吸収・粉塵の飛散防止など、快適な空間づくりに貢献しています。

品川区の臨海部には大規模な公園や広場が整備されていますが、親水空間は充分とは言えません。

また、内陸部では、大崎や大井町などの駅周辺での開発やこれに伴う道路・公園などの整備が進められていますが、新たに大規模な公園・緑地の整備は困難な状況にあります。

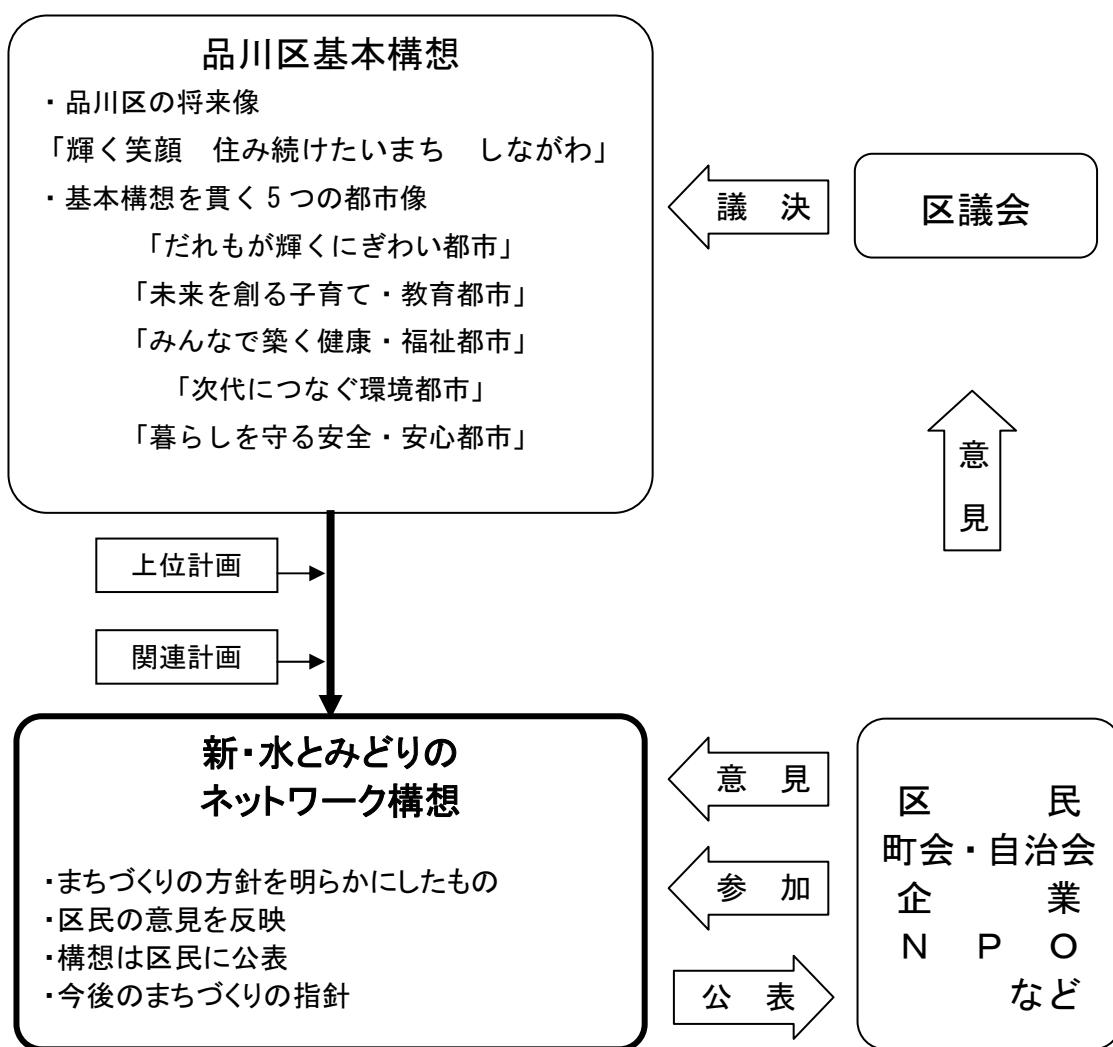
こうした状況の中で、品川区は「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」の実現を目指し、親水機能の充実とみどりの増加に取り組んでいく必要があります。

併せて、「水とみどりのネットワーク」を充実させるために、多様な担い手による協働や多様なしくみづくりなどについても検討を進める必要があります。

## 1.3 「新・水とみどりのネットワーク構想」の位置づけと役割

### 1.3.1 「新・水とみどりのネットワーク構想」の位置づけ

「新・水とみどりのネットワーク構想」は、平成20年3月に策定した品川区基本構想を上位計画とし、区民からの意見などを参考にしながら策定を進めてきました。公表後は区民にネットワークづくりに参加してもらう計画としています。

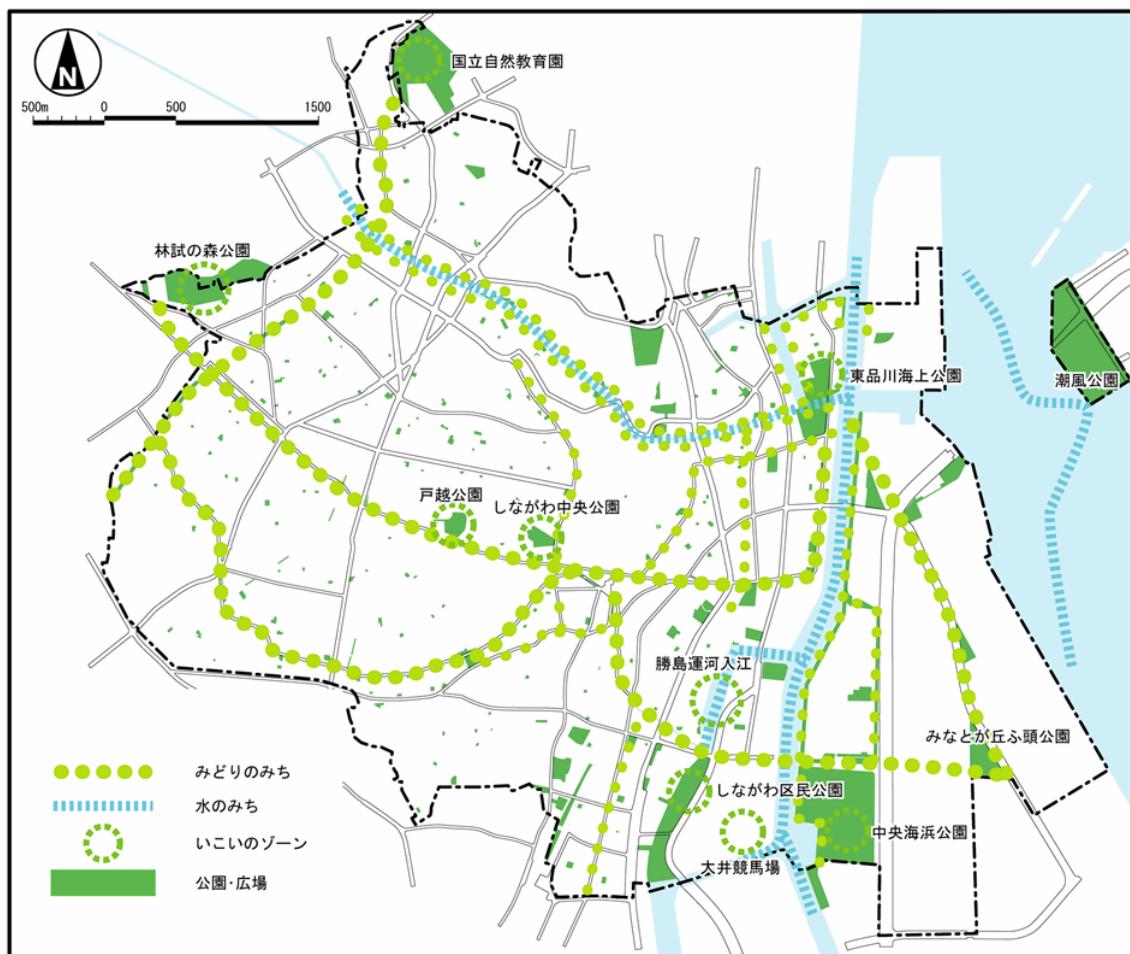


【新・水とみどりのネットワーク構想の位置づけ】

### 1.3.2 「水とみどりのネットワーク」について

#### (1) 「水とみどりのネットワーク」の概要

品川区では、「しながわ区民公園」や「東品川海上公園」、「しながわ中央公園」などの拠点整備や、立会川緑道や河川護岸整備など、施設整備を中心としたネットワークづくりを進めてきました。



【水とみどりのネットワーク図】

近年は、ネットワーク軸である目黒川や運河沿いで民間開発なども進行しており、土地利用の転換を機に親水性の向上や緑化に努めています。

これまでのように公共空間で「親水空間やみどり」の充実を図るだけではなく、「運河ルネッサンス構想」などのように規制緩和を図りながら、民間開発や花壇・路地裏のみどりなども含めた新たなネットワークづくりを推進していく必要性が高まっています。

## (2) 「新・水とみどりのネットワーク構想」の役割

これまでの「水とみどりのネットワーク」づくりは、品川区（行政）が主体となった公園や緑地・水辺空間などの「拠点」と、これらを結ぶ街路や遊歩道などの「動線」の整備を中心とした取り組みでした。

「新・水とみどりのネットワーク構想」は、こうした従来の取り組みを継承しつつ、多様な担い手の参加を促しながら参加者の自主性を尊重し、点から面の整備へ、さらに担い手同士が情報や空間・時間の共有を図れる展開を目指します。具体的には、行政と公共（国・都）、区民、町会・自治会、企業、NPO が連携を図りながら、「水とみどり」のあり方や活用方法について話し合います。

その話し合いの結果を踏まえて、新たな公園の整備や既存公園の再生・維持管理、それらを結ぶ緑道などの整備を実現していきます。

また、区民、町会・自治会、企業・NPO などが集まって品川区の「水やみどり」について話し合う場を設け、それを通じて「水とみどりのネットワーク」が担うべき機能の更新・充実を図っていきます。

### 「水とみどりのネットワーク」の実績

- ・東部が充実
- ・大規模開発、都市公園など
- ・事業進捗率が高い

- ・既存の河川、道路を指定
- ・東部が充実
- ・公共空間を利用

- ・公園、緑地、水辺へのアプローチを促す動線
- ・既存の施設、事業を活用

- ・ハードの事業が主体
- ・水や緑と接する機会の少ない区民

- ・地域によって生活環境が異なる

- ・品川区

### 「新・水とみどりのネットワーク構想」の考え方

- ・新たな水とみどりの拠点を増やす
- ・児童公園、緑道なども含む身近な施設
- ・新たな整備計画、構想も含む

- ・ひと、もの、情報のネットワークも含む
- ・バランスよく配置
- ・民間企業や区民、町会、自治会によるまちづくり。地域活動も利用

- ・公園、緑地、水辺へのアプローチを促し、多様な機能を有する動線
- ・実用性の高い効果的なネットワーク形成

- ・ハードとソフトを対象
- ・品川区民、来訪者

- ・品川区民の地域特性にあった生活環境改善に寄与

- ・区民、町会、自治会、企業、NPO、国、東京都、品川区

### 【新・旧「水とみどりのネットワーク」の違い】

## 1.4 「新・水とみどりのネットワーク構想」の目標像

品川区では、「水とみどりのネットワーク」を長期基本計画の主要施策の柱として位置づけ、緑被率の向上や、区民が土に触れ緑を育てる喜びを体験できる機会を設けるなど、内容の充実を図ってきました。

一方、品川区民の関心は、第17回品川区世論調査の結果からわかるように、少子化高齢社会の到来による生涯教育や省資源・リサイクル、自然や生態系の保護、防災・防犯など、身近な生活の場に向けられています。「水とみどりのネットワーク」についても、こうした方向に沿って充実を図っていく必要が高まっているといえます。

こうした状況を背景に品川区は、区民、町会・自治会、企業、NPOなどが様々な形で協力しあい、よりよい品川区するために、「新・水とみどりのネットワーク構想」の目標像を『水とみどりが つなぐまち』と定めました。

併せて、区民が「みどりを育んだり、水辺空間づくりに参加できる」「情報共有を図りながらみどりに触れ合える」など、幅広いネットワークの構築と、区民が参加・利用できる場・機会・しくみづくりを提案します。

「新・水とみどりのネットワーク構想」の目標像：

### 『水とみどりが つなぐまち』

多様な担い手：区民、町会・自治会、企業、NPOなど

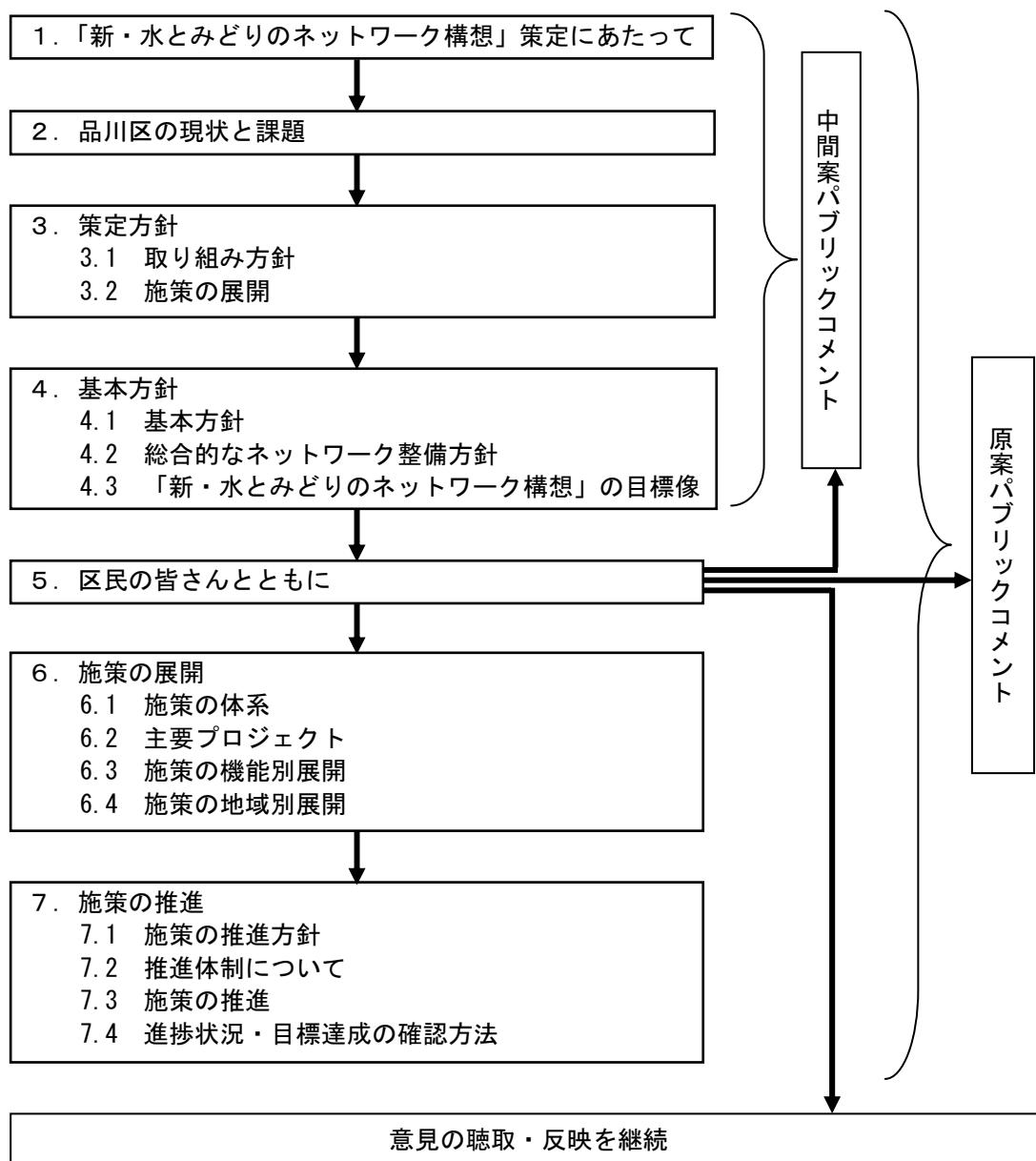
- 「水とみどりのネットワーク」について考え、話し合う。
- 様々な形で協力しあう。
- 「水とみどりのネットワーク」を利用する。
- 「水とみどりのネットワーク」づくりに参加する。

……など

【水とみどりのネットワークの目標像】

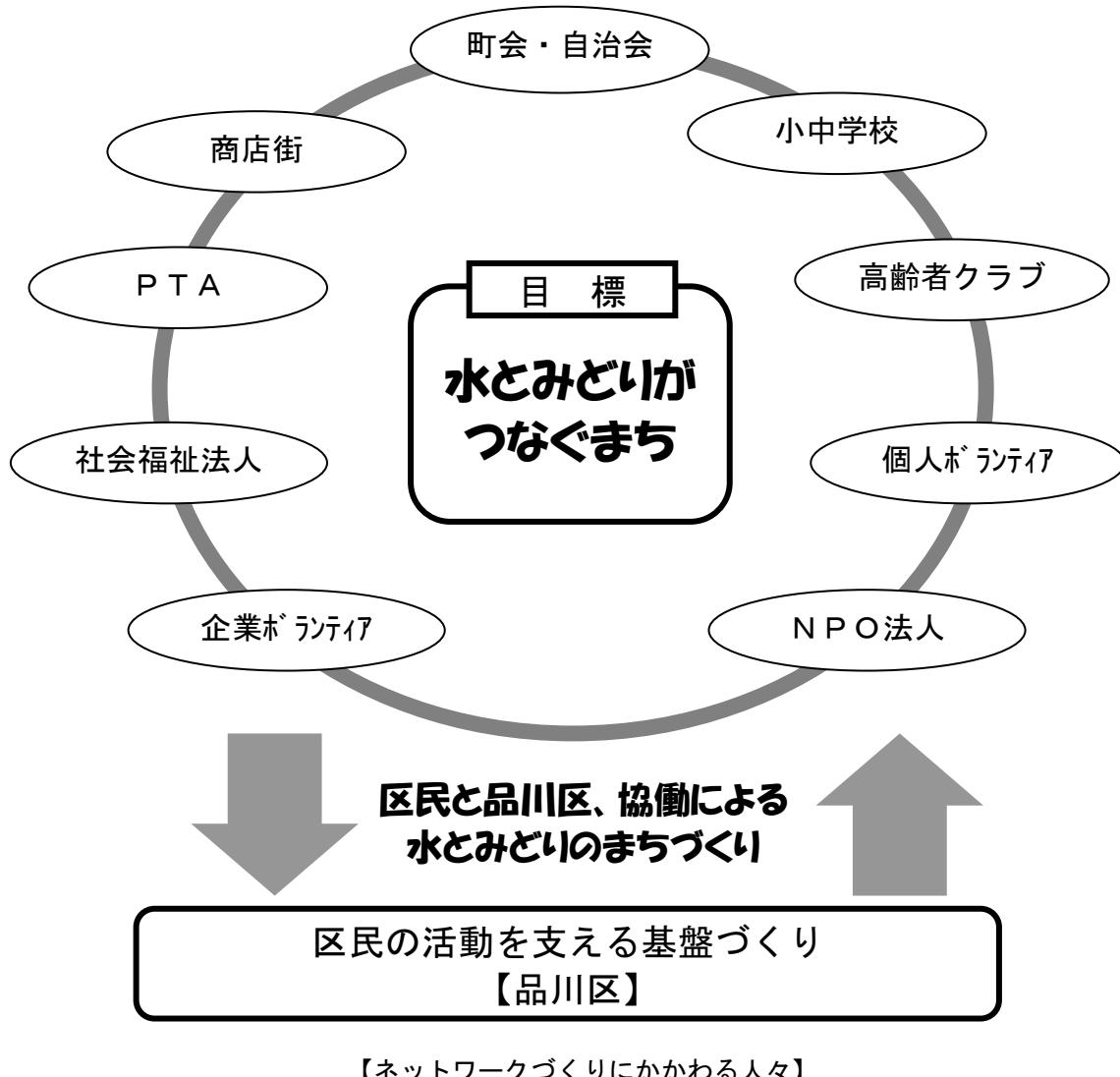
## 1.5 「新・水とみどりのネットワーク構想」の内容と構成

「新・水とみどりのネットワーク構想」は、これまでの経過と課題を第2章で、解決策も含む「策定方針」を第3章で、「基本方針」を第4章で、「区民の皆さんとともに」を第5章で、「施策の展開」を第6章で、「施策の推進」を第7章でまとめてあります。



## 1.6 計画策定と住民参加

「新・水とみどりのネットワーク構想」策定にあたっては、話し合いに参加する関係者が共通のテーマに沿って活発な意見を対等な立場で出し合える機会と場を創出します。



話し合いの場で出された意見や提案事項は「新・水とみどりのネットワーク構想」づくりに関わる事業として、品川区が取り組む施策に反映されます。

## 2. 品川区の現状と課題

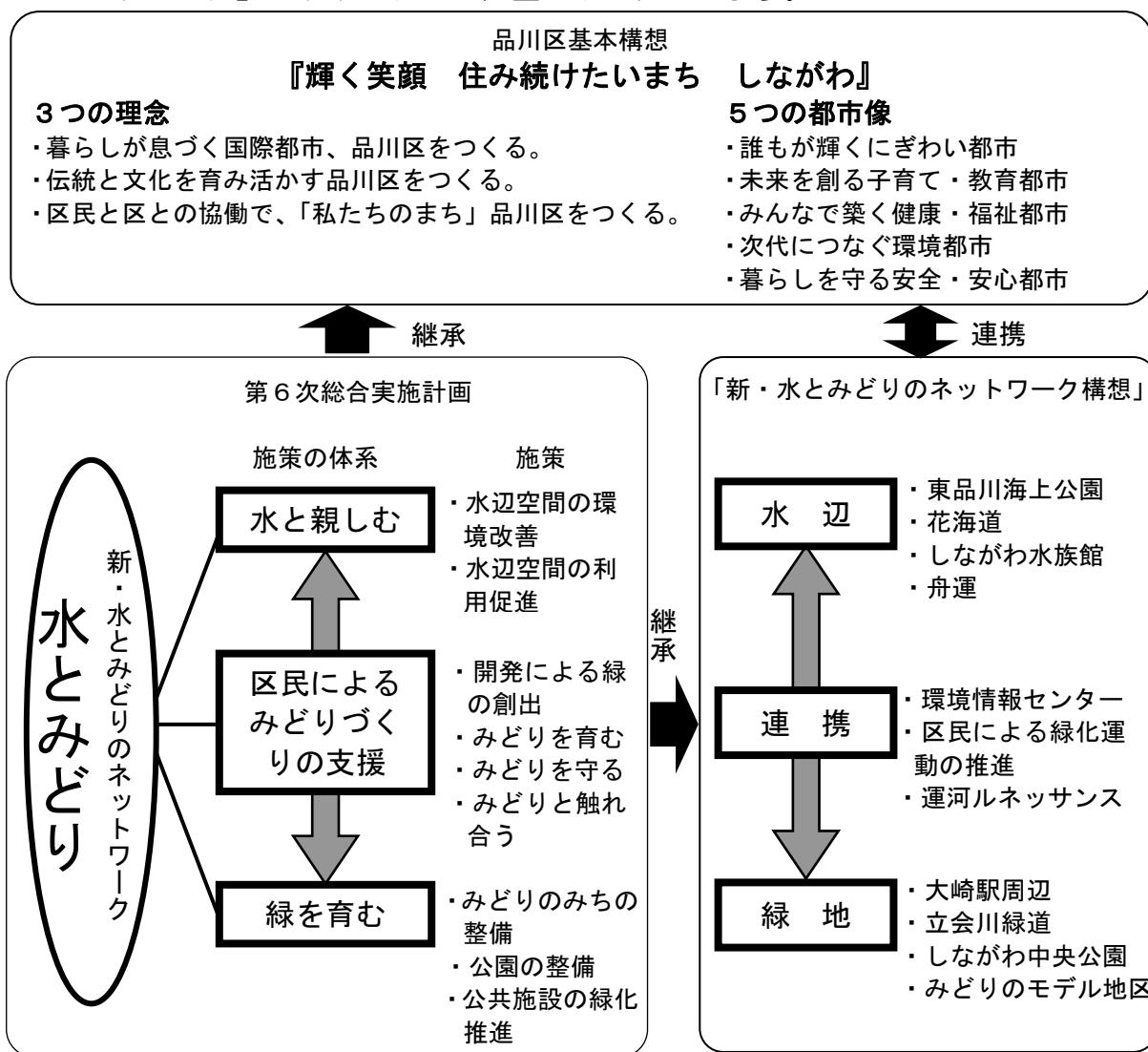
### 2.1 品川区の概要

#### 2.1.1 品川区の取り組み

品川区の「水とみどりのネットワーク」づくりは、昭和53年策定の「品川区長期計画」においてその原型が示されて以降、拠点および軸線として位置づけられている公園や緑道の周辺を中心に、様々なまちづくり施策や事業計画により進められてきました。

そして、長期計画を見直すたびに、その整備の中味である整備方針の充実を図ってきました。

その結果、平成20年3月策定の「品川区基本構想」や「第三次品川区長期基本計画 第6次総合実施計画」においては、「水とみどりのネットワーク」は以下のように位置づけられています。



### 2.1.2 水とみどりを取り巻く状況の変化

これまでの「水とみどりのネットワーク」づくりは、区民が身边に水とみどりに触れ合えるよう、レクリエーションなど余暇を過ごすための拠点の充実を進めるものでした。

しかし、近年、「水とみどりのネットワーク」に求められる「機能」と「ネットワークの概念」に変化が生じています。

#### (1)機能の変化

水辺や緑地は区民の憩いの場であり、また、都市環境の形成において重要な役割を果たす構成要素です。これまで、水辺や緑地を連携するネットワークを形成することで、区民や就業者、来訪者のレクリエーションの場として、また、散策や通勤・通学といった生活ネットワーク機能の強化が図られてきました。

しかし、地球的な規模での環境保護が重要視されるようになった今日、「水とみどり」の様々な効果の認知や「水とみどり」に対する社会的な合意が形成されつつあるほか、都市再生のための都市基盤も含めた再構築の機運の高まりなどにより、「水とみどりのネットワーク」を推進する状況が変化しつつあります。

機能	これまでの役割
観光・交流	● 緑豊かで快適なレクリエーションの場と安全・安心な移動ルートの形成

+

機能	今後求められる役割
環境（都市）	● ヒートアイランドの分断やクールアイランドの形成など都市の生活環境改善
環境（生物）	● 生物の生息・生育および移動のための空間確保による、生物多様性の保全
景観・アメニティ	● 連続した緑による良好な都市景観形成
防犯・防災	● 避難地や避難路の形成、延焼遮断帯の形成による都市の防災性の向上

## (2) ネットワーク概念の変化

これまでの「水とみどりのネットワーク」づくりは、施設間を結ぶ動線を整備することにありました。

しかし、水やみどりを取り巻く状況（環境・意識）が変化している中、自治体主体の施設整備から、区民や企業・NPO団体などからの提案や意向を取り入れたソフトによるネットワークづくりへの移行が重要視されるようになっています。

これに伴い、「水とみどりのネットワーク」は、「人やグループ間の連携」「事業の連携」「ハードとソフトの連携」「時間の連携」といった様々な機能が求められるようになっています。

機能	これまでの役割
施設のネットワーク	●水辺と緑地を相互に結ぶ緑道や遊歩道（街路樹・生垣整備）

+

機能	今後求められる役割
知識・労働力・資金のネットワーク	●人や団体、企業との繋がり
事業のネットワーク	●自治体・企業の事業の連携
ハードとソフトのネットワーク	●ハード（施設）とソフト（しくみ）の連携

様々なネットワークが形成されることにより、多くの施策が効率的かつ効果的で即効性と持続性のある取り組みとなります。

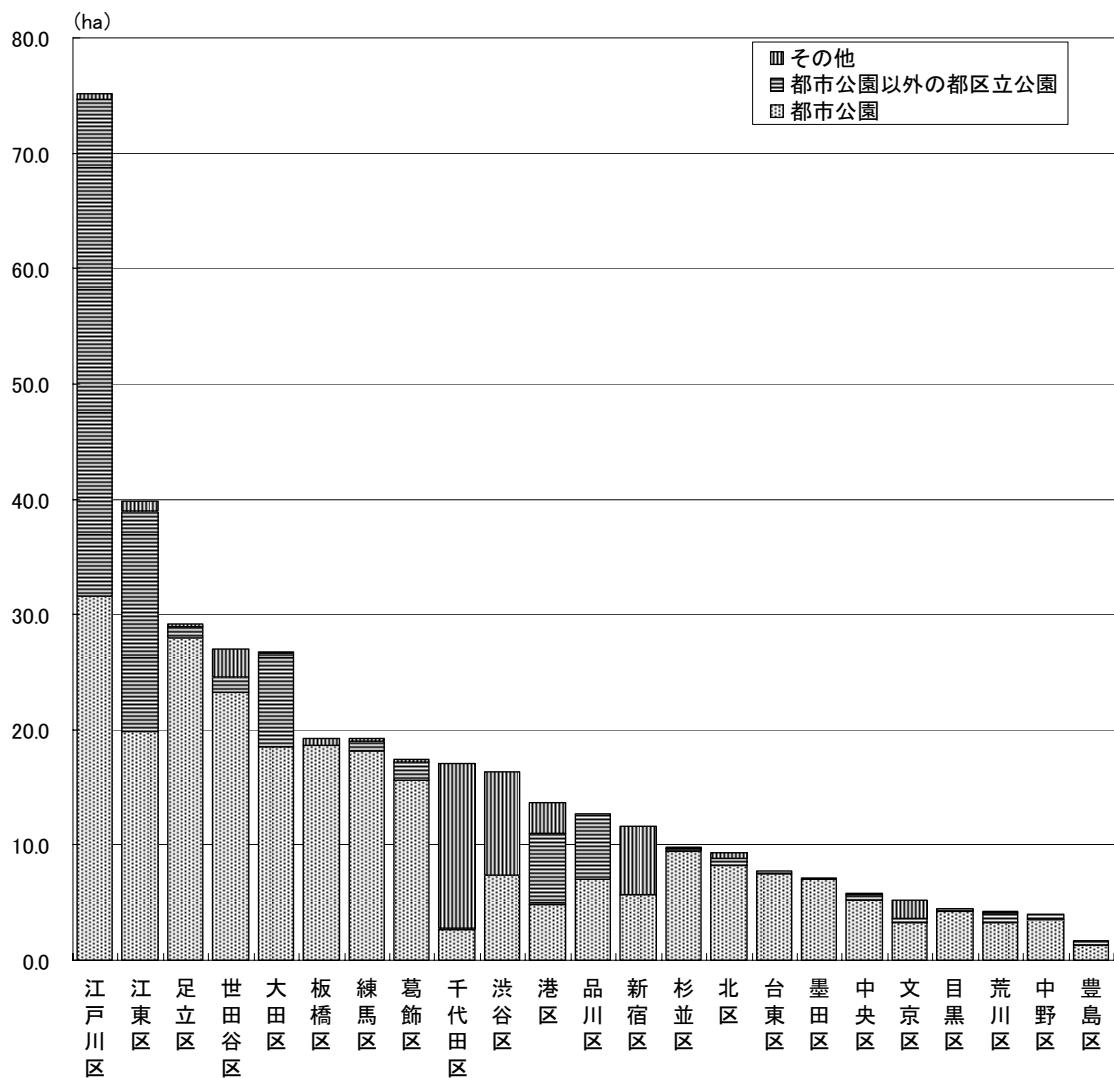
	課題	方向性
【水辺】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質の改善</li> <li>・水量の減少</li> <li>・急激な増水</li> <li>・水辺アクセスが困難</li> <li>・水辺が減少</li> <li>・行政に偏った整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質浄化</li> <li>・維持流量の確保</li> <li>・河川構造物整備、浚渫</li> <li>・水辺利用施設整備</li> <li>・水辺利用を妨げる規制緩和</li> <li>・親水性向上、舟運活性化</li> <li>・せせらぎ復元、ビオトープ整備</li> <li>・企業・区民の手、資金、アイデアの活用</li> <li>・舟運の活性化</li> </ul>
【連携】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偏っている水辺と緑地</li> <li>・行政に偏った整備</li> <li>・整備、管理、運営主体の意志疎通不足</li> <li>・広報、PR不足</li> <li>・区内のネットワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとのネットワーク</li> <li>・もののネットワーク</li> <li>・情報のネットワーク</li> <li>・時間のネットワーク</li> <li>・区外に広がるネットワーク</li> <li>・地域ごとの水辺、緑地のあり方の明確化</li> <li>・行政内、企業・区民間の情報共有、協働による整備（ソフト・ハード）</li> <li>・ボランティアや人材の確保</li> <li>・憩い、潤い、賑わい空間の創出</li> </ul>
【緑地】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の量の地域的な偏り</li> <li>・緑の質の地域的な偏り</li> <li>・地域性が薄い緑地</li> <li>・行政に偏った整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の量の充実</li> <li>・緑の質の充実</li> <li>・地域性を踏まえた緑づくり</li> <li>・企業・区民の手、資金、アイデアの活用</li> <li>・規制緩和</li> <li>・補助金</li> </ul>

【水とみどりのネットワークの概念の多様化】

### 2.1.3 品川区の水とみどりの現状と課題

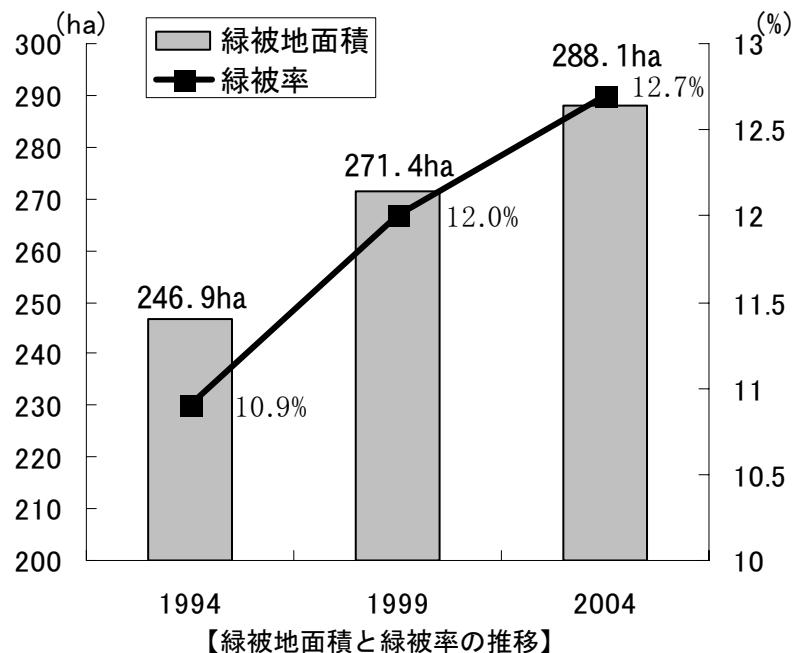
品川区の区民 1 人当たりの公園面積は約 3.82 m<sup>2</sup>であり、ほぼ 23 区平均の水準にあります。しかし、内陸部では約 1.64 m<sup>2</sup>と狭く、臨海部との地域的格差が大きくなっています。

今後は内陸部に新たな公園を整備したり、区民の新たなニーズを踏まえて既存の公園の質を向上し、公園・緑地・水辺を快適な歩行者空間によってつなぐなど、魅力的なまちづくりに取り組むことが求められています。



【23 区の公園などの整備状況（平成 19 年 4 月現在）】

平成 16 年度（2004）に品川区が行った「みどりの調査」では、区内の緑被率は 12.7%で、平成 6 年度（1994）からの 10 年間で 1.8%（緑被地面積約 41.2ha）増加しています。



しかし、地上部で確保できる緑の総量には限界があるため、今後は建築物の屋上や壁面・河川の護岸などの新しいスペースの緑化を行うなど、「みどりの条例」に基づく施策を推進する必要があります。

また、貴重なみどりを次世代に引き継いでいくため、公園の整備や公共施設の緑化に力をいれる必要があります。

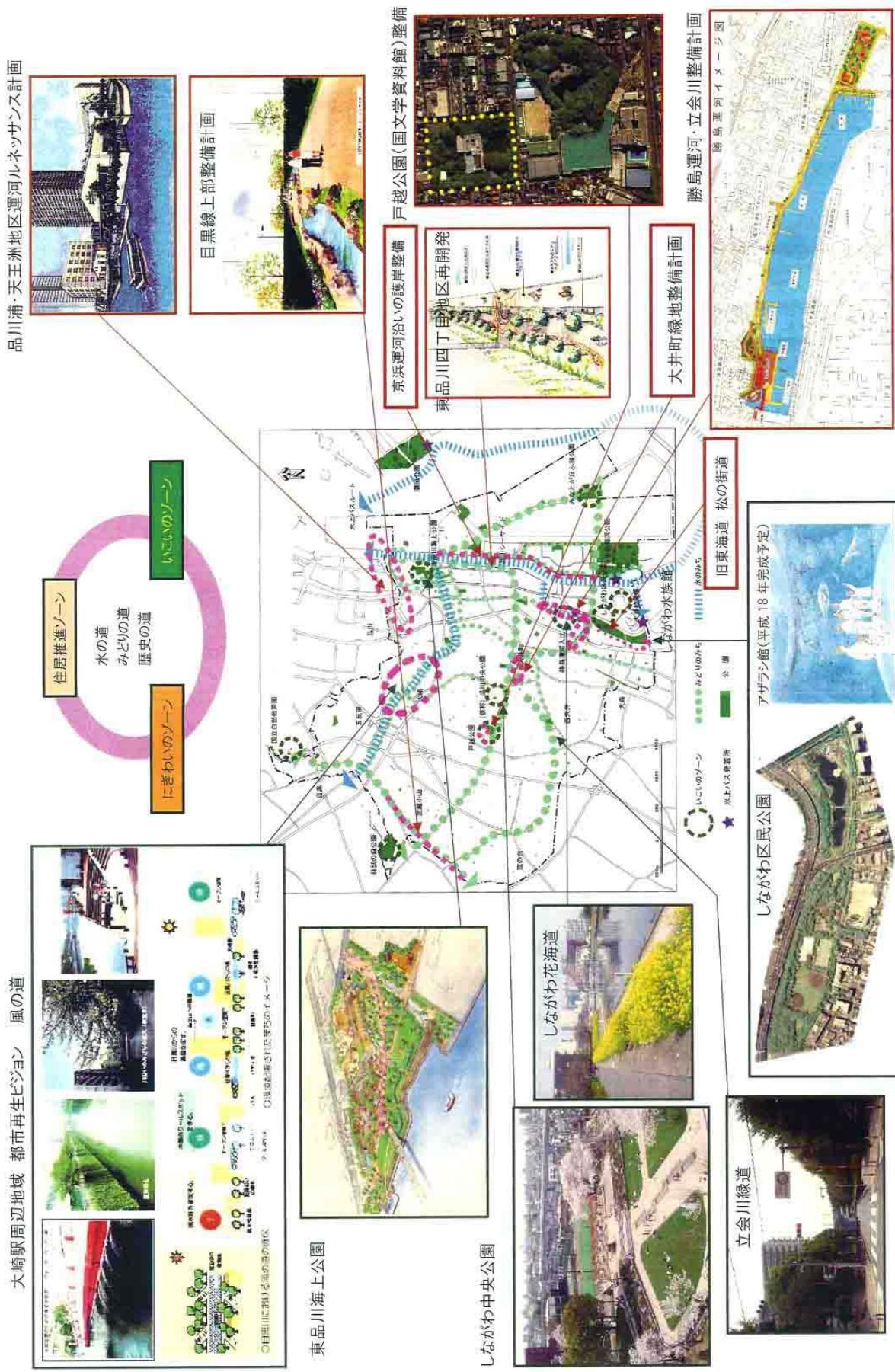
さらに、区民が土に触れ、緑を育てる喜びを体験できる機会を多く設けるなど緑に対する意識を高めることや、緑化活動を行う場と機会を設け、講師やリーダーの協力を得ながら、それぞれの地域で「水とみどりのネットワーク」づくりを行うなどの取り組みが重要となります。

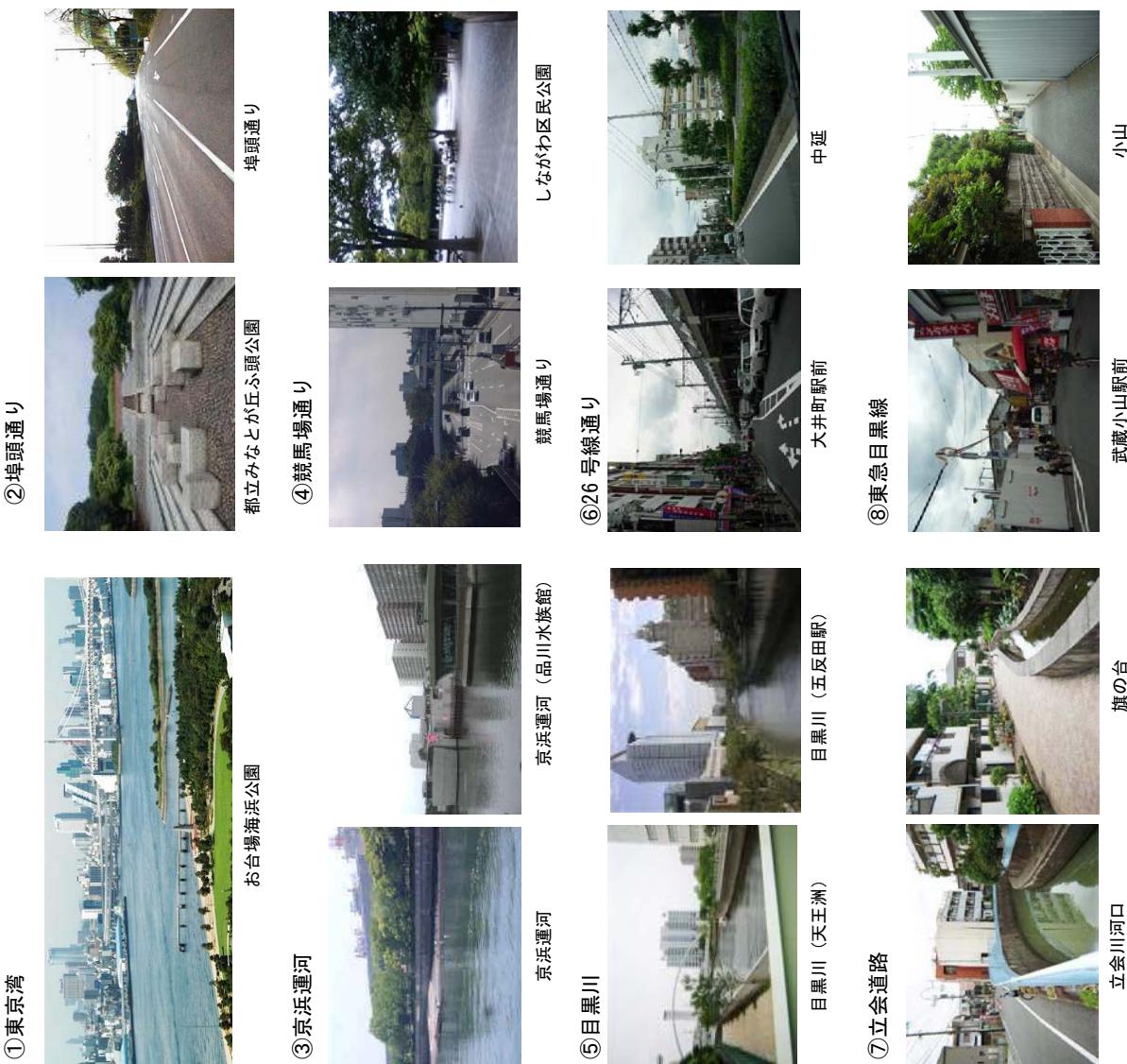
水辺環境は、目黒川・立会川や運河がありますが、親水空間は充分ではありません。

水辺は憩いの空間であり、レジャー・環境教育など重要な役割があることから、親水性の向上も課題のひとつとなっています。

## 2.1.4 「水とみどりのネットワーク」に関連する事業

これまで「水とみどりのネットワーク」づくりに関連する事業としては、拠点となる公園や幹線となる緑道などの整備が、以下のような形で進められてきました。





## 2.2 「水とみどりのネットワーク」の把握・分析

「水とみどりのネットワーク」は、区民が等しくその機能を享受できることが理想です。しかし、まちの特徴や成り立ち、再開発事業の有無などによって、地区ごとに違った現状が生じています。

2.2.1 「水とみどりのネットワーク」の把握  
「水とみどりのネットワーク」として位置づけられている8つの軸線の調査を行いました。

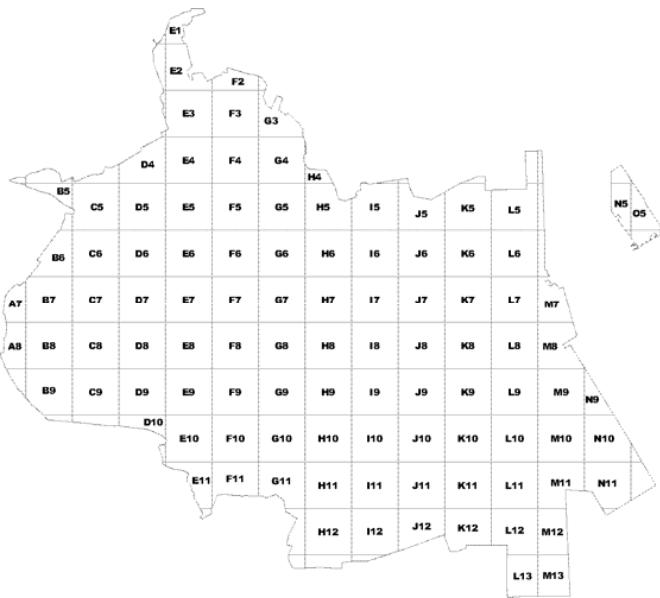


【水とみどりのネットワーク図と8つの軸線】

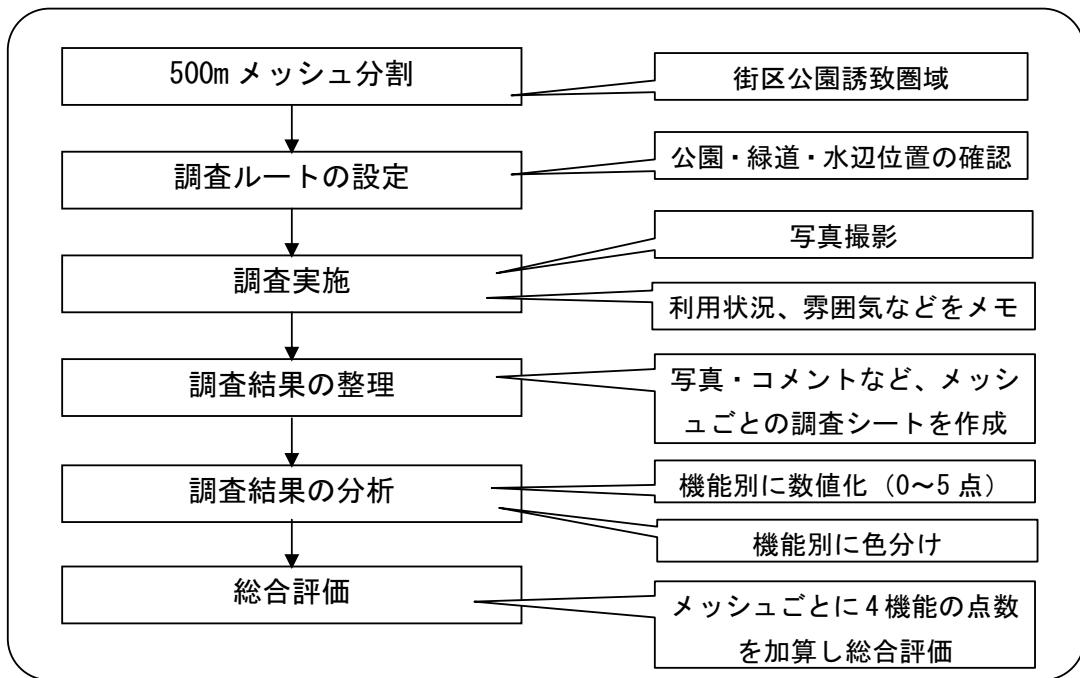
## 2.2.2 「水とみどりのネットワーク」の分析

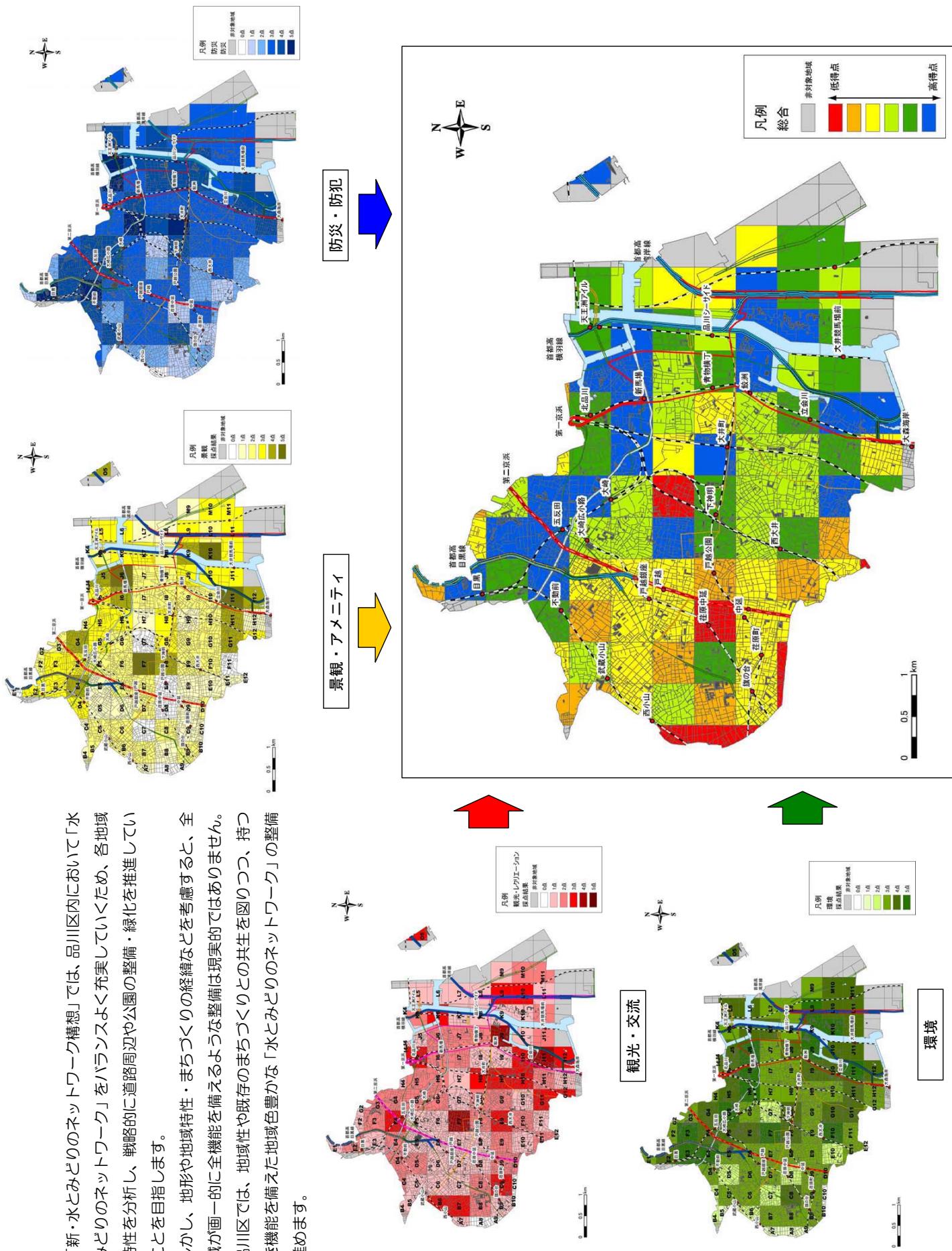
品川区内のみどりや水辺の量や質について、地域ごとの違いを確認するため、「水とみどりのネットワーク」が持つ機能である「観光・交流」「環境」「景観・アメニティ」「防災・防犯」の4つの視点で調査を行いました。

調査は、品川区を 500m四方のメッシュに分割し、メッシュ内のみどりや水辺の量と質、市街地形態などを点数化して整理しました。



【地区別調査のためのメッシュ分割】





### 3. 策定方針

#### 3.1 取り組み方針

品川区の「水とみどりのネットワーク」は、昭和53年の「品川区長期基本計画」に始まり「第三次長期基本計画」まで継続的に進められてきました。

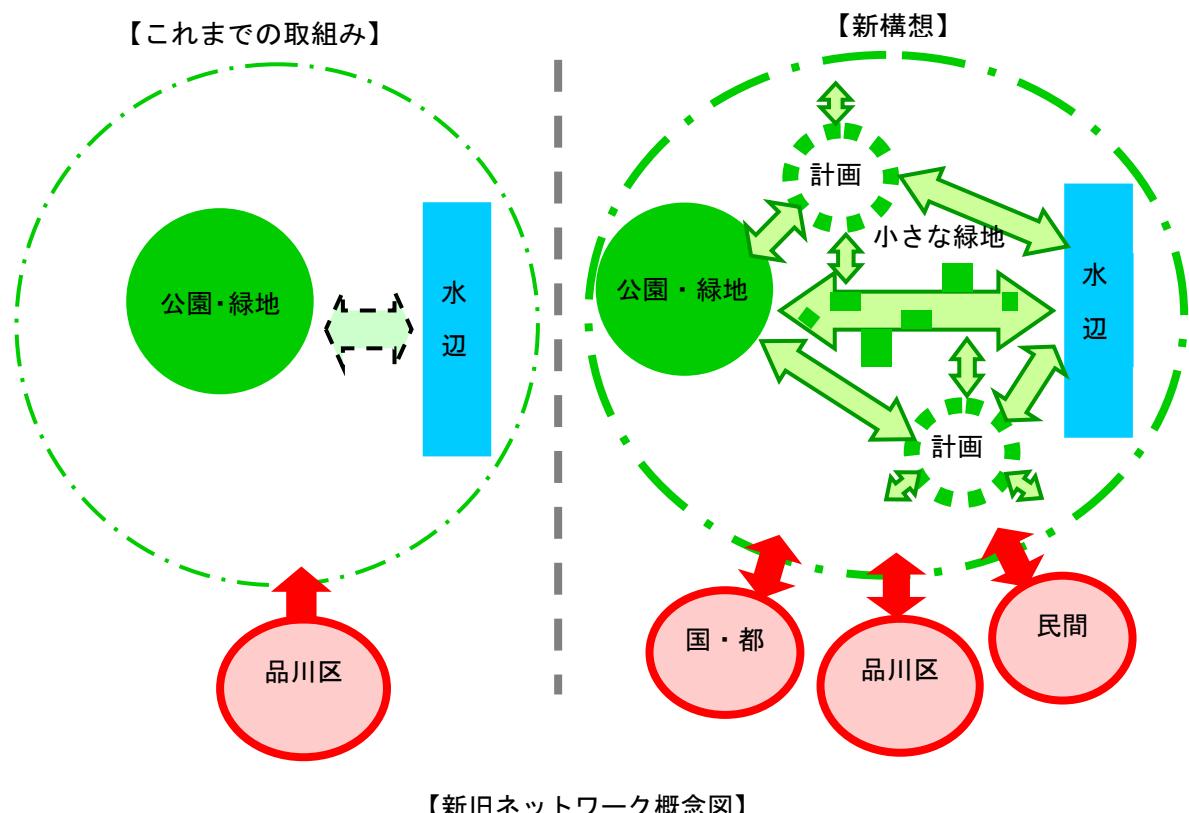
品川区では、今後も区民の暮らしや生活の中で、水やみどりを通じて、身近に潤いと安らぎを感じられる生活環境を享受できるまちづくりに取り組みます。

### 3.1.1 品川区主体から区民や企業との協働へ進展

品川区は、区民の生活環境の向上や行政サービスの充実を図るため、公共空間における「水とみどり」に関する拠点整備を進めてきました。(下図左)

「新・水とみどりのネットワーク構想」では、これまでネットワークに含まれなかった計画や事業・小さな緑地や水辺、花壇や植木鉢なども「水とみどり」を構成する大切な要素としてとらえ、それらを様々なネットワーク（街路樹や遊歩道による連携、事業主体間の連携、人や活動による連携、歴史や文化による連携）で結びつけます。

こうした取り組みを発展させ、区民が愛着や親しみを持って、育んできたまちの中の小さな緑や水辺も含めた身近な空間にも目を向け、区民や町会・自治会、企業、NPOなどと協働で、さらに広く細分化した「水とみどりのネットワーク」を構築していきます。(下図右)

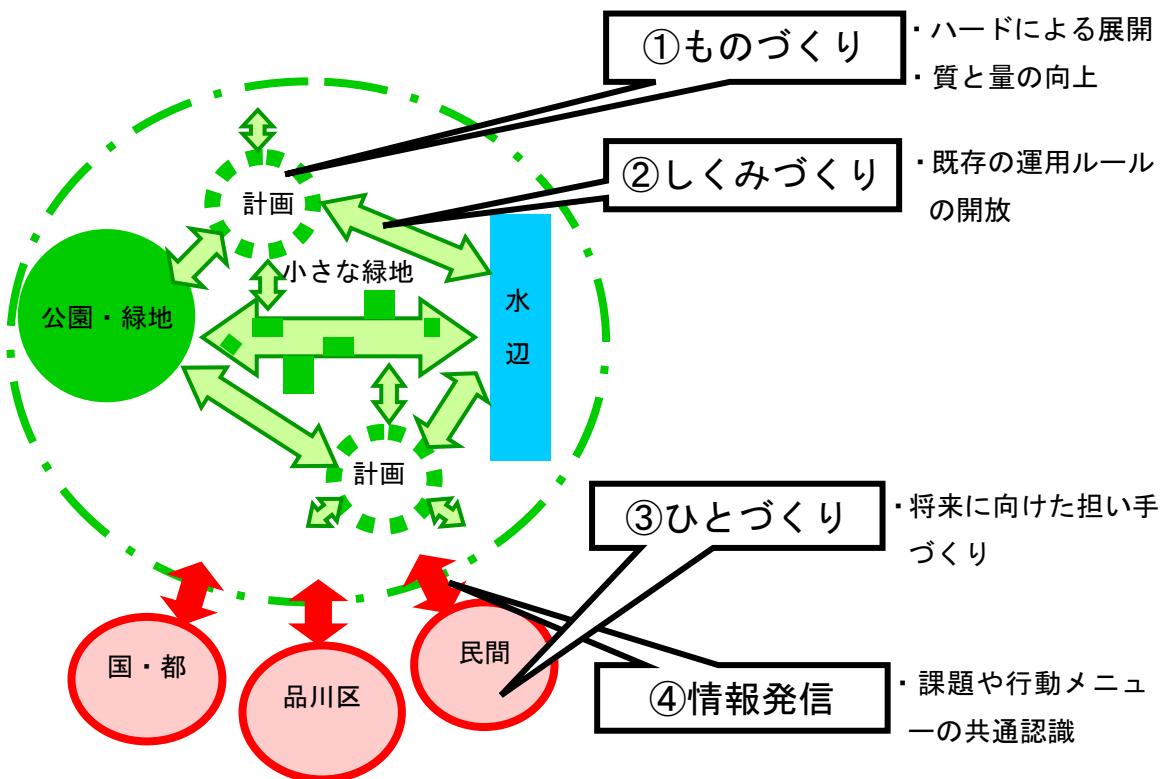


### 3.1.2 区民との協働

「新・水とみどりのネットワーク構想」は、拠点整備だけではなく参加機会や活動メニューなども提供しながら、水とみどりに関する時間や空間をつなげるため、以下のように取り組みます。

- ① 公共空間を中心に小さな水辺やみどりを連携させるもの（空間や場）づくり
- ② 活動の「機会」「場」「方法」など区民や企業なども参画しやすいしくみづくり
- ③ 「場」「機会」などを活かせるひとづくり
- ④ 情報を共有し共通認識を高めるための情報発信

これらの取り組みを繰り返すことができる施策の展開を検討することを策定方針とします。



【施策を展開するための4つの取り組み】

## 3.2 施策の展開

「新・水とみどりのネットワーク」を推進するための4つの取り組みについて、今後の方向性を以下に示します。

### 3.2.1 ものづくり

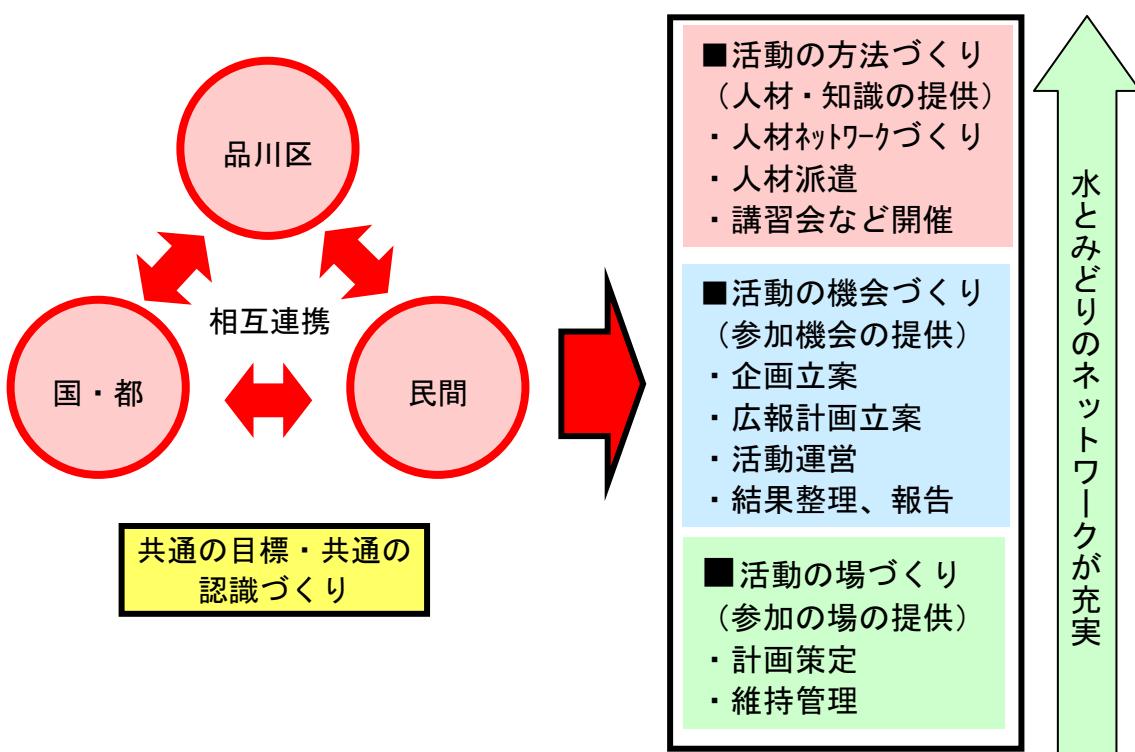
ものづくりは、個別の「施設整備」的な要素です。

「新・水とみどりのネットワーク構想」では、ものづくりにより「観光・交流」「環境」「景観・アメニティ」「防犯・防災」の4つの機能が充実します。

観光 ・ 交流	散策・自然學習 の場	休憩・休息の場	運動・遊びの場	・ 船着き場の整備 ・ 防災倉庫の整備 ・ 逃げないですむ街づくり ・ 安全な避難路の確保 ・ 防災公園等の整備  ・ 目黒川、立会川周辺等の みどりの道の整備 ・ みどりと花のボランティア ・ 公園の整備、再整備
	気温上昇緩和、 大気の浄化	省エネルギー化 に寄与	生物の 生息環境	
	良好な景観形成	地域個性の創出	通行者の 視線誘導	
アメニティ	延焼の遅延や 防止	火災時の避難場 所・避難経路	河川・水路の流 量の調整・洪水 の防止	・ 石置の整備 ・ 電線の地中化 ・ 道路緑化、緑道整備  ・ 街並み整備事業 ・ 街道松の整備 ・ 親水広場の整備 ・ 水上レクリエーション基 地の整備 ・ 天王洲キャナルウォーク

### 3.2.2 しきみづくり

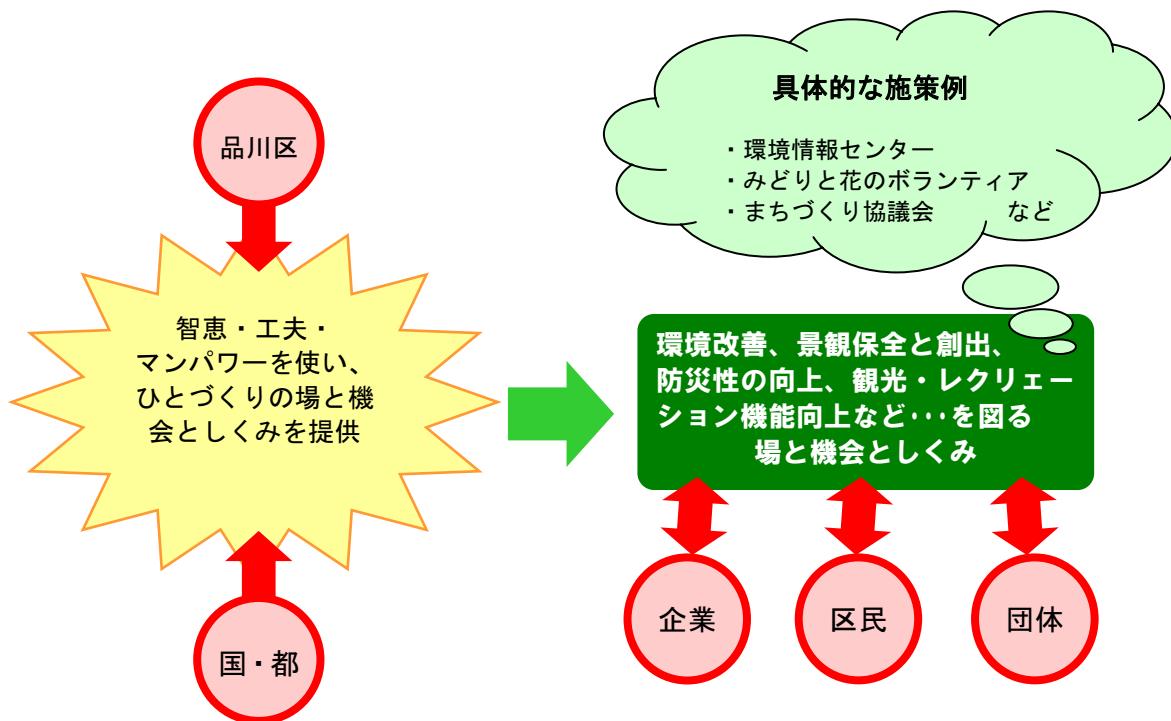
しきみづくりは、「ものづくり」する際の、計画・施工・利活用・維持管理などの「マニュアル」的な要素です。しきみづくりは、「新・水とみどりのネットワーク構想」を充実させるために必要な「場づくり」「機会づくり」「方法づくり」の3つに分類されます。



### 3.2.3 ひとづくり

ひとづくりは、「新・水とみどりのネットワーク構想」に主体的に関わる人材の育成に関わる行動メニューです。

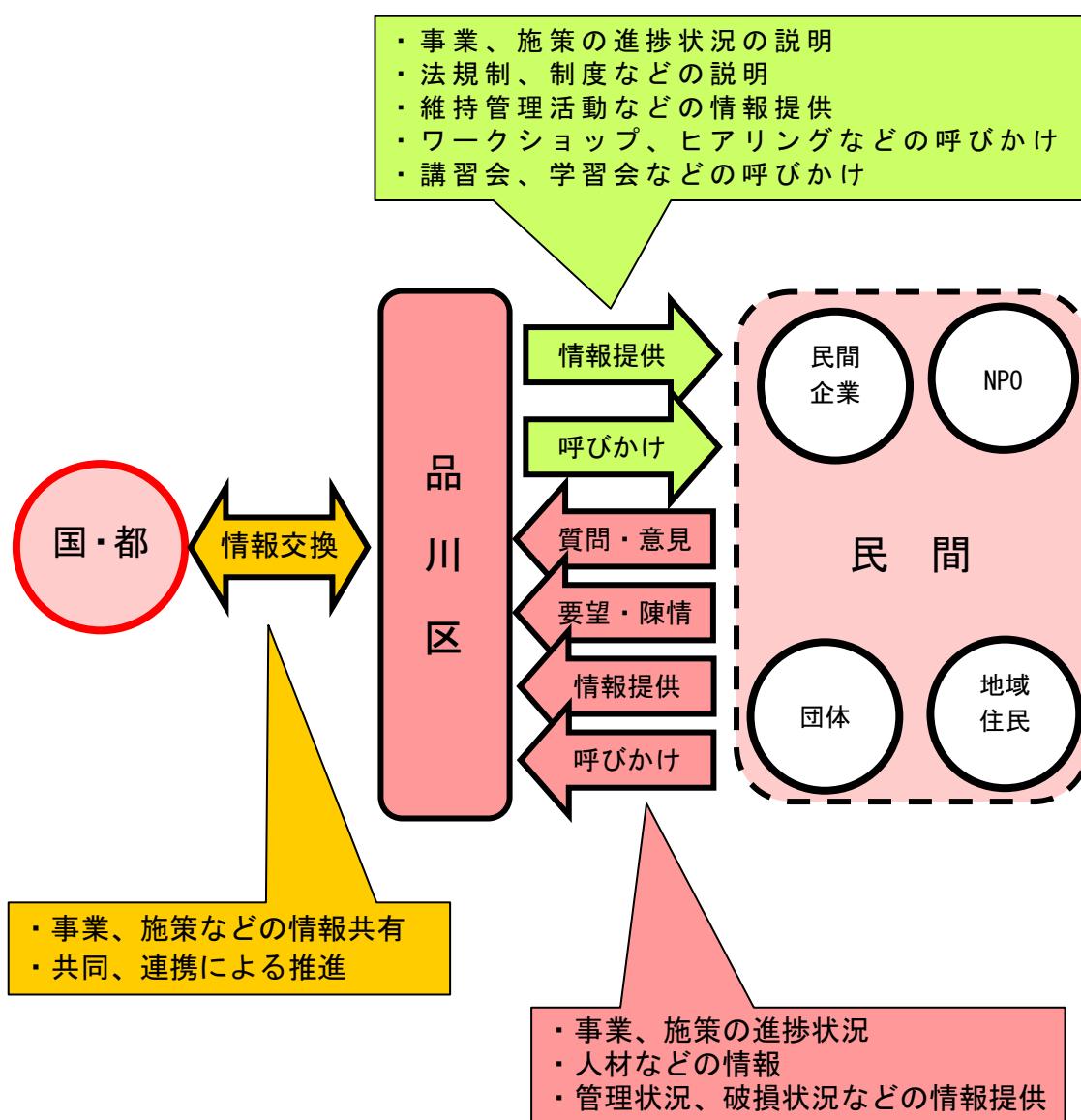
当初は、品川区が中心となって進めますが、人材育成の状況に併せて区民や団体、企業などに管理・運営主体を移行します。



### 3.2.4 情報発信

情報発信は、「新・水とみどりのネットワーク構想」に関わる「組織」や「ひと」を結ぶ情報伝達・広報に関わる行動メニューです。

ホームページやニュースレターを使って、活動の案内・実施報告などを行うほか、各機関・団体に担当者を置き、定期的に情報交換のできる場を設けます。



## 4. 基本方針

### 4.1 「新・水とみどりのネットワーク構想」の基本的な考え方

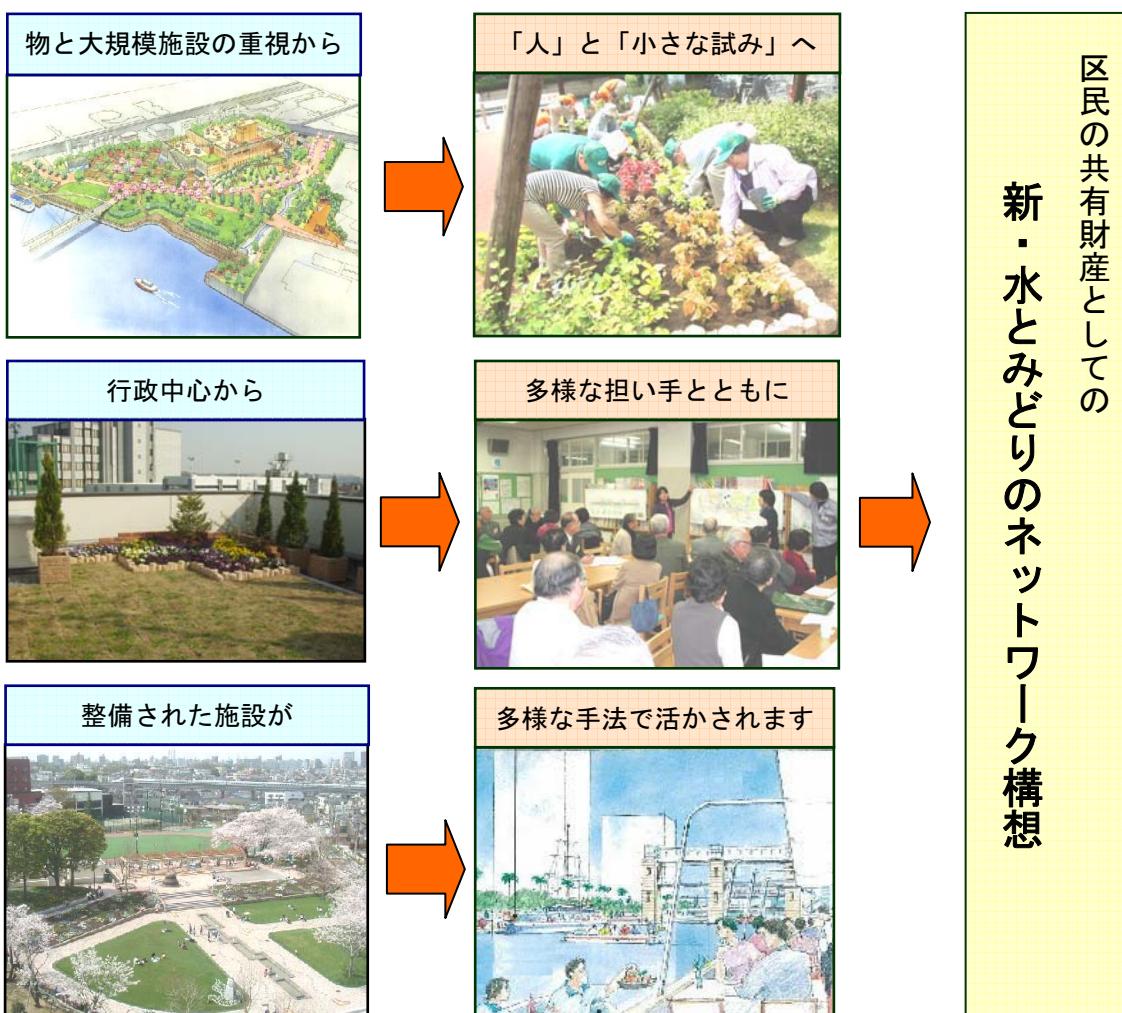
これまでの「水とみどりのネットワーク」づくりに関する取り組みは、まちづくりの核となる公共的な緑地や水辺の整備を充実させることに目が向けられていました。

今後は、これまで行政が中心になって進めてきたことを、多様な担い手が多様な手法で様々な試みを通じて進めていく必要があります。

そこで、「新・水とみどりのネットワーク構想」では目標像を

### 『水とみどりが つなぐまち』

と設定し、いつまでも区民の共有財産となることを目指します。



(1) 「物」と「大規模施設」から「人」と「小さな試み」へ  
まちの中の、小さな水辺やちょっとしたみどりに心がなごむ体験をしたことのある人は沢山いると思います。

しかし、いつもの暮らしの中で水やみどりを身近に感じることができるまちであれば、いつまでも生き生きと人が行き交うまちになるはずです。

品川区は、心をなごませることができる「水辺」や「みどり」は、人の手によって守られ育まれていくものだと考えています。

そのためには、「誰に喜んでもらい」「誰に愛してもらえるか」など、区民と共に考え続ける仕組みが大切です。

### 水とみどりの機能・役割の認識

#### 避難経路として使えるよ！

(防災まちづくりを進めています)

#### ネットワークに指定されたルートは歩きやすい！

(区ではバリアフリー化に取り組んでいます)

#### ルート沿いには文化財や観光施設があって効率的に見てまわれるよ！

(活性化まちづくりを進めています)

#### ネットワークに指定されたルートは景色がいい！

(景観ガイドプランに沿ってまちづくりを進めています)

#### いろんな体験や学習が可能！

(人や物、情報の交流を進めています。)

(管理やまちづくり活動への参加を進めます)

#### 川や運河がきれいになった！

(水質改善や水辺環境の改善、舟運の活性化に取り組んでいます)

#### 安全で気持ちいい！

(健康で心のふれあう思いやりのまちづくりを進めています)

人材把握・育成

施策の方向性づくり

人材派遣・連携

具体化・実施・支援

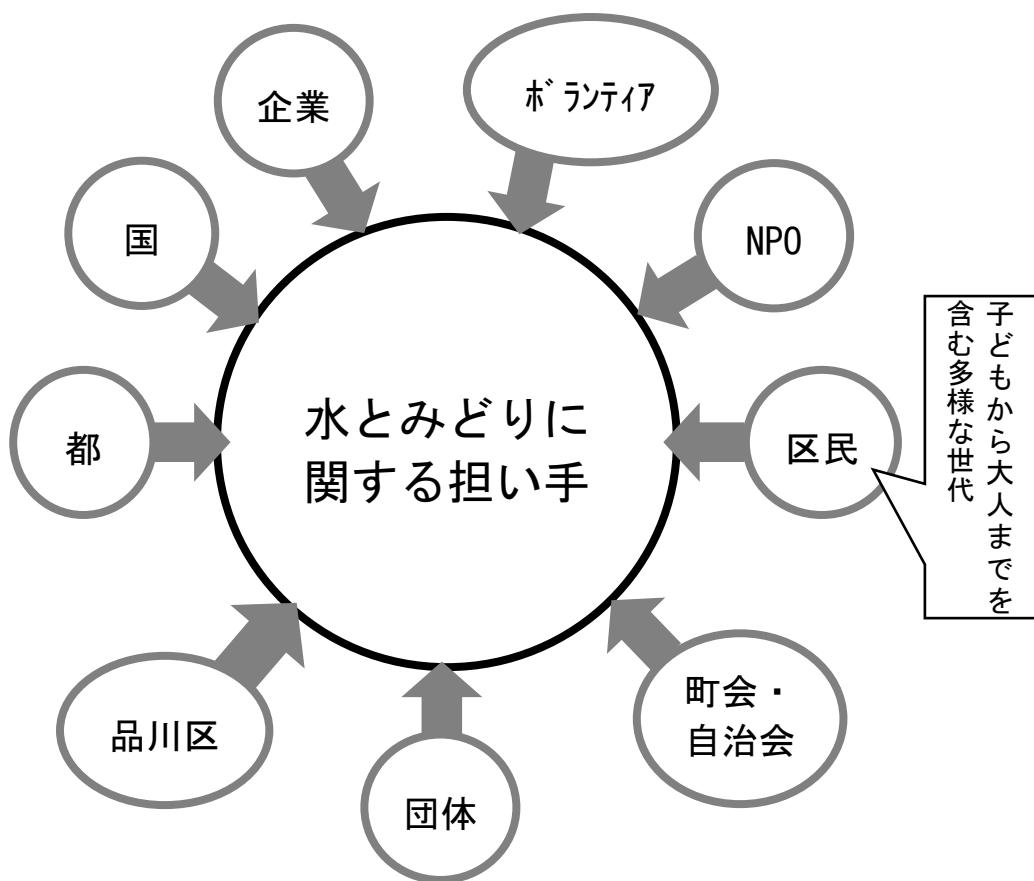
## (2) 行政中心から多様な担い手とともに

「新・水とみどりのネットワーク構想」は、これまでの品川区（行政）主導による拠点（水辺や緑地）や動線の整備に加え、区民や町会・自治会・企業・NPOなどを交えた「人」・「事業」・「ソフトとハード」など、複合的なネットワーク（連携）を整備することを目標としています。

「新・水とみどりのネットワーク構想」づくりの担い手は、品川区に関わるすべての人・組織が対象となります。

併せて、将来に渡って担い手の育成が継続されるよう、「生涯教育」や「環境教育」にも力をいれます。

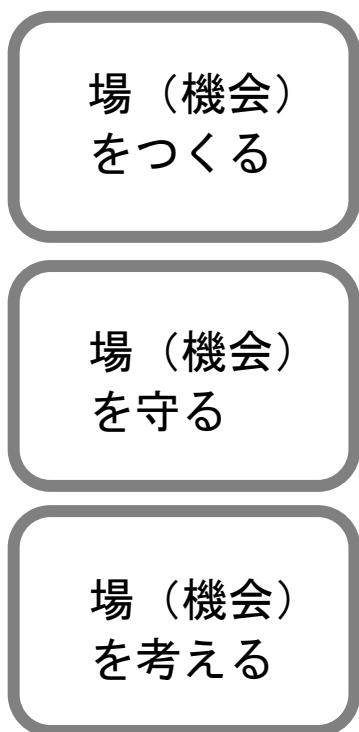
ただし、無秩序に水辺づくりや緑化を進めるのではなく、条例や規則などを踏まえ、参加者が「水とみどりに関わる担い手」となり、共通認識のもと、共通の目標を目指し取り組む必要があります。



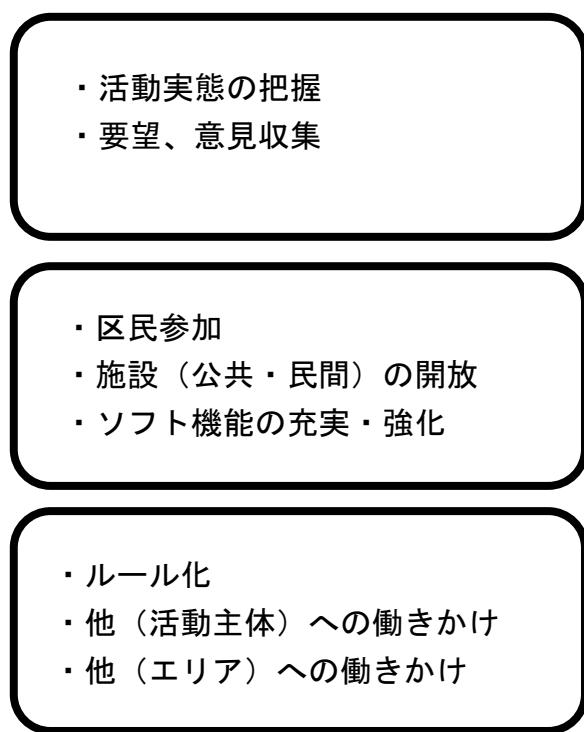
また、担い手は初めから「水とみどり」に精通している必要はなく、他の人と接して話し合い、様々な体験の機会を積み重ねることにより、成長してもらえることを目指します。

様々な担い手が参加できるようになることで、担い手は一定のルールのもとで、やりたいことに自主的に取り組むことができるようになります。

### 【品川区の役割】



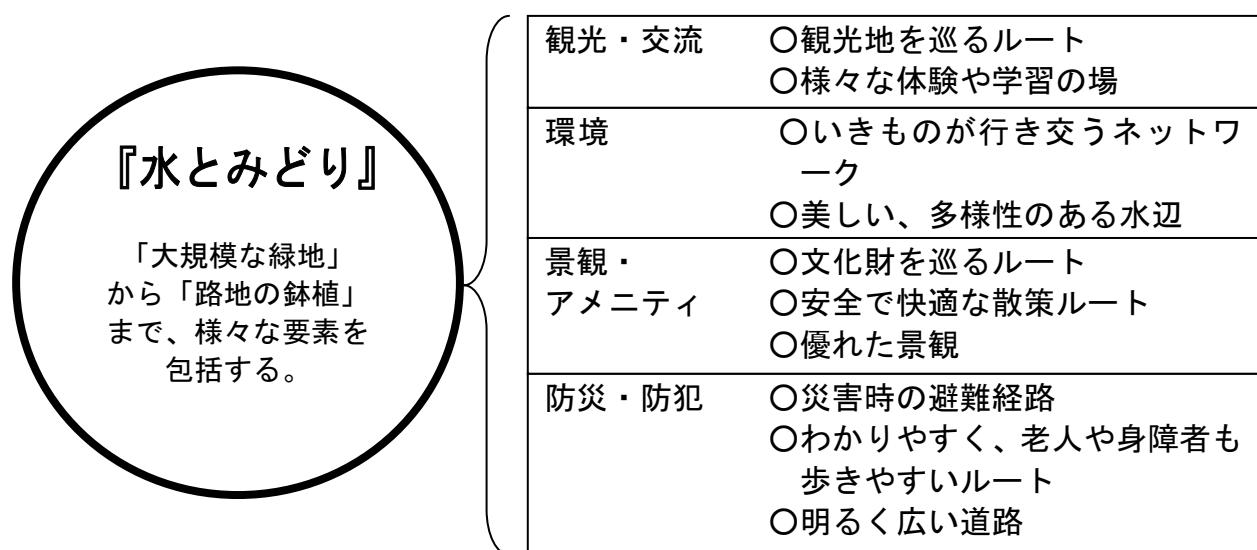
### 【担い手の役割】



### (3) 整備された施設が多様な手法で活きる

「新・水とみどりのネットワーク構想」は、区民のレクリエーション空間の確保、都市環境の維持・改善、美しい都市景観の形成、都市の防災性の向上などの多様な機能を持っています。

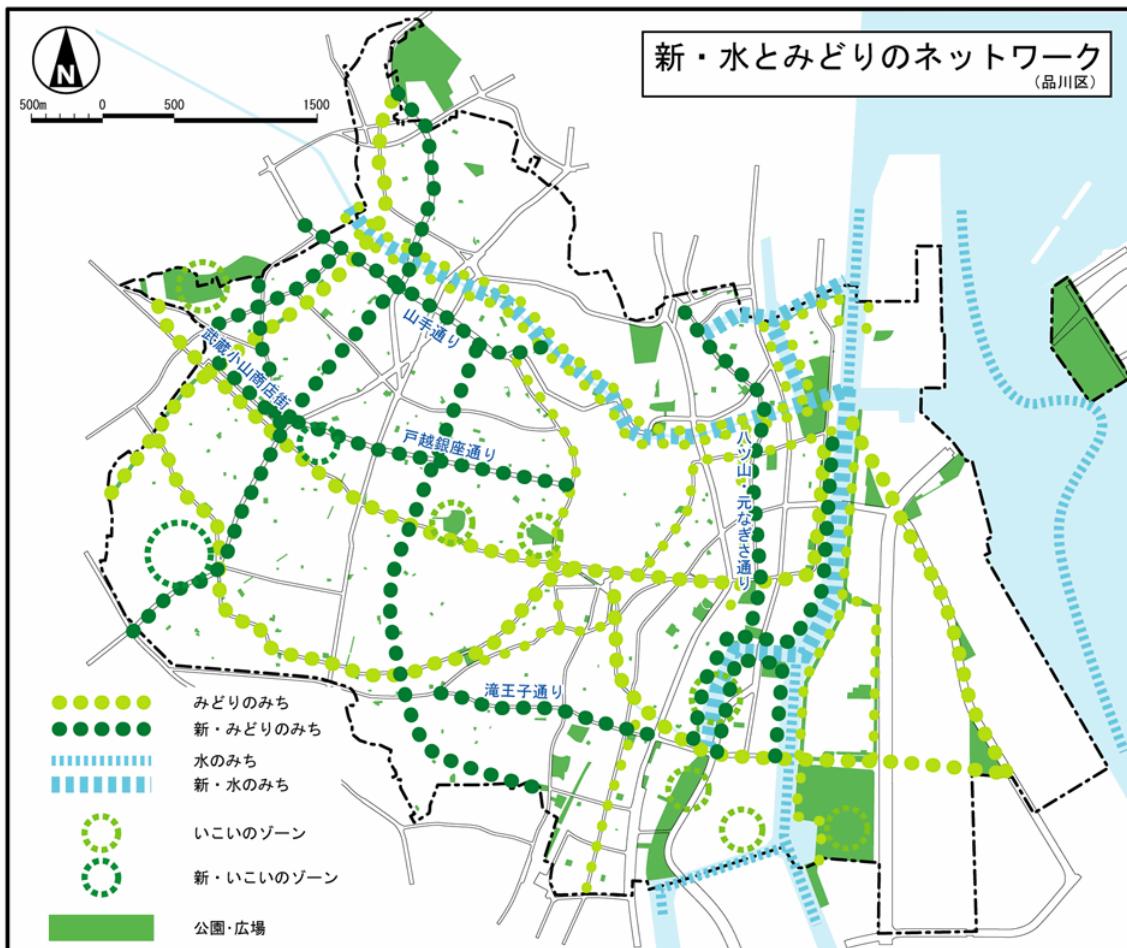
これらの機能は、良好な都市環境を保持し、円滑な都市活動を支え、都市生活の安全性・利便性・快適性を確保する上で基盤となるものです。



こうした施策の展開は、区民生活の多様性を現実に表現する場にもなります。品川区は、多様性を重視した様々な試みを支援していきます。

## 4.2 総合的なネットワーク整備方針

これまでの「水とみどりのネットワーク」の成果や、計画されているまちづくりに関わる事業などを再確認し、これからは戦略的に「水とみどりのネットワーク」機能を充実させる必要があります。



【総合的な水とみどりのネットワーク整備方針図】

### 4.3 「新・水とみどりのネットワーク構想」の目標

品川区では、水とみどりを守り増やしていく目標の設定について、次のように考えていきます。

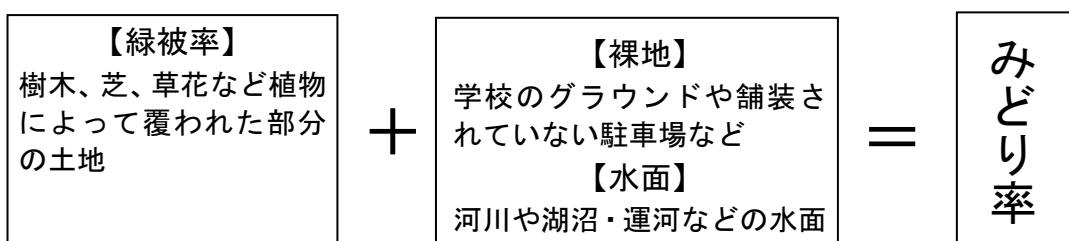
#### ■ みどり率の確保目標

品川区では、昭和 59（1984）年に策定された「緑の基本計画」以降、みどりの状況を緑被率（上空から見て緑で覆われている部分が区面積に占める割合）という考え方で整理してきました。

しかし、区民の暮らしの中で水やみどりの関わり方を考えると、単純にみどりで覆われた部分の数値化では、水とみどりの役割や機能を理解することは困難です。

むしろ、区民が水やみどりに触れ合える場所や機会を把握するという意味では、水辺やみどりを一体的に捉える目標設定が適切ではないかと考えました。

そこで、本構想では、目標設定の表現の方法として「みどり率」という考え方を用いることとし、今後定める長期基本計画の中で数値目標を設定することとしました。



「みどり率」とは、ある地域における樹林地・草地・農地・宅地内の緑（屋上緑化を含む）・公園・街路樹や河川・水路・湖沼などの面積がその地域全体の面積に占める割合を指します。

※参考：国や東京都が示す「みどり」の考え方

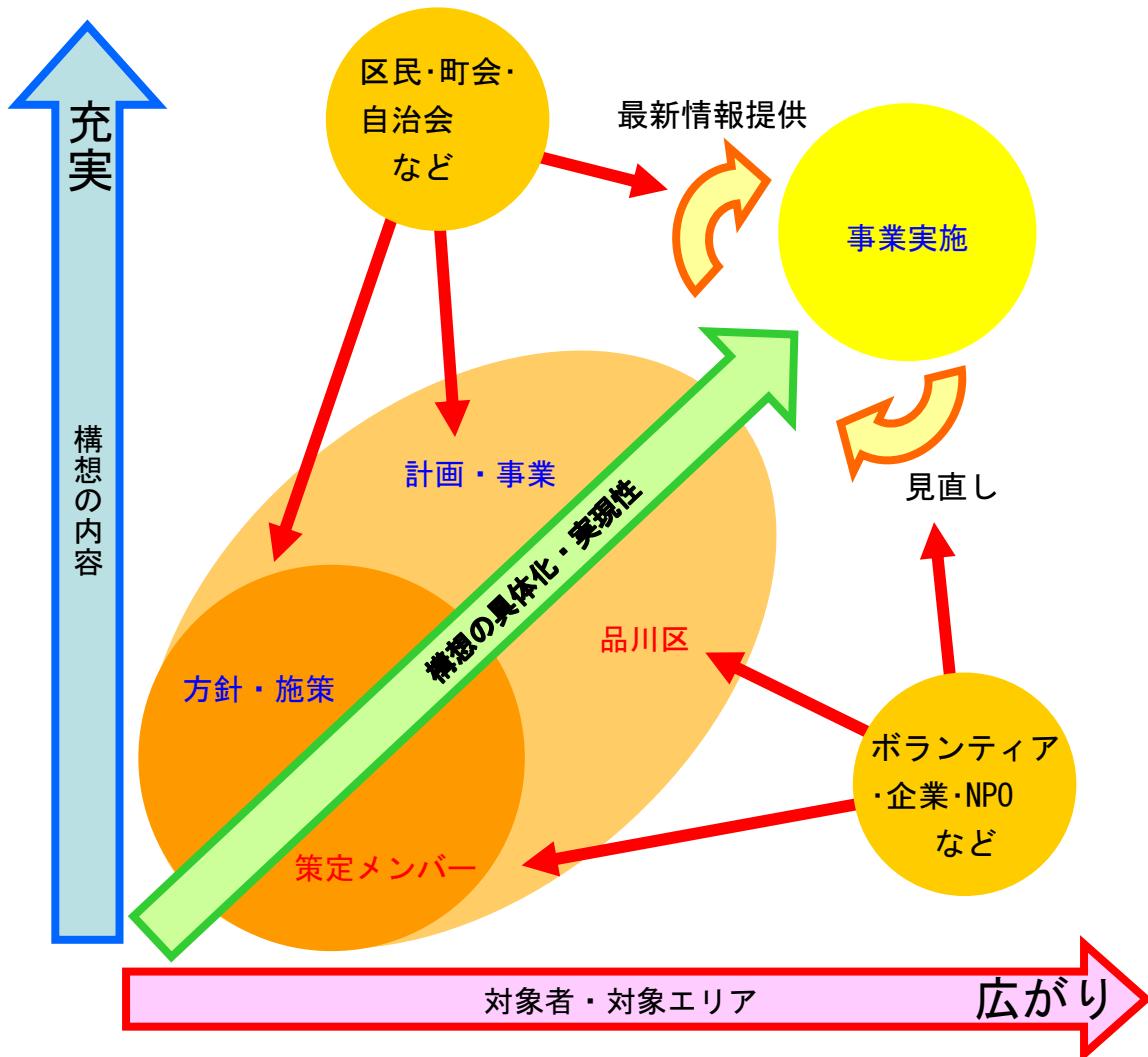
緑の政策大綱（1994）	市街地における永続性のある緑地割合を 3 割以上確保することが目標
緑の東京計画（2000）	2015 年度までに、区部のみどり率を 32% にすることが目標
東京らしいみどりをつくる新戦略（2003）	2025 年までに区部のみどり率（29%）を 2 割増加（34.8%）することが目標

## 5. 区民の皆さんとともに

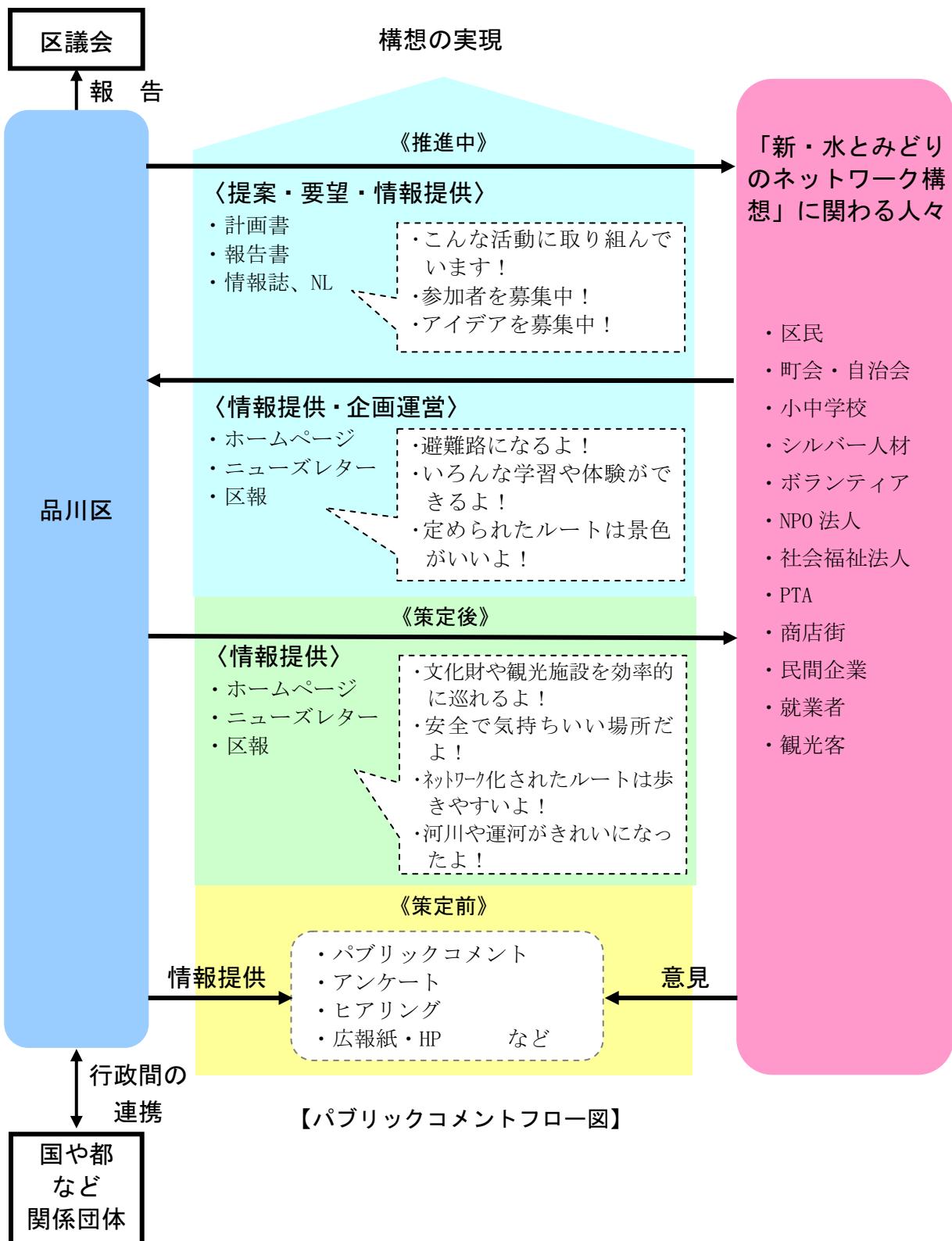
「新・水とみどりのネットワーク構想」は、区民の意見も反映して策定しています。

構想策定後は、毎年「具体的な事業」の進捗状況と目標達成度を確認し、次年度の事業に反映していきます。

そして、様々な施策を展開するにつれて対象エリアと対象者を拡大していきます。



品川区と「水とみどりに関わる人々」との間で情報の共有と意見のやりとりを行いながら、「新・水とみどりのネットワーク構想」は充実していきます。



「新・水とみどりのネットワーク構想」策定にあたってパブリックコメントを実施しました。実施概要を以下に示します。

- パブリックコメント・・・区民を対象に意見を公募
  - ヒアリング調査・・・緑化や水辺を利活用しているボランティアが対象
  - アンケート調査・・・まちづくり事業展に来訪した方が対象

実施方法	実施期間	実施場所	意見数
パブリックコメント (中間案)	平成 19 年 7 月 11 日～ 8 月 10 日	・区役所 ・ホームページ ・区報 ・各地域センターなど公共施設	23 件
ヒアリング	平成 19 年 9 月～11 月	・東品川海上公園 ・しながわ中央公園 ・品川区役所	19 件
アンケート	平成 19 年 9 月 8 日	・しながわ中央公園	300 件
パブリックコメント (原案)	平成 20 年 3 月 1 日～ 3 月 21 日	・区役所 ・ホームページ ・区報 ・各地域センターなど公共施設	8 件



## 区報に掲載されたパブリックコメント（中間案）



## 区報に掲載されたパブリックコメント（原案）



## パブリックコメント（中間案）



## パブリックコメント（原案） 冊子

## 6. 施策の展開

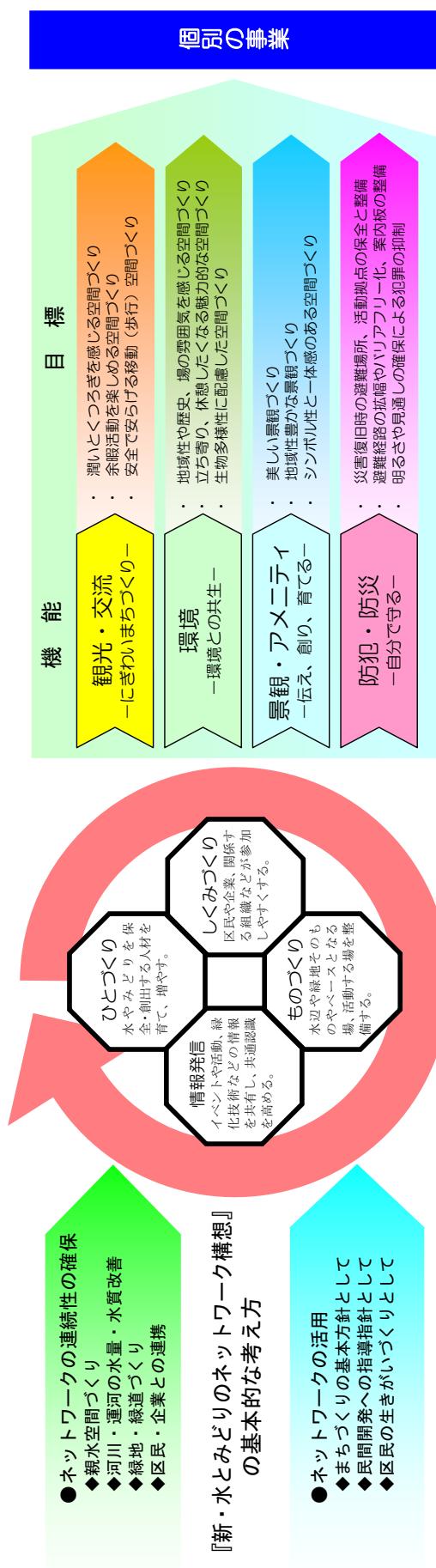
### 6.1 施策の体系

「新・水とみどりのネットワーク構想」は、「品川区の水とみどりに携わる人」に参加機会や活動メニュー・情報などを提供することによって、人・時間・空間などのつながり（ネットワーク）を作り出すためのものです。

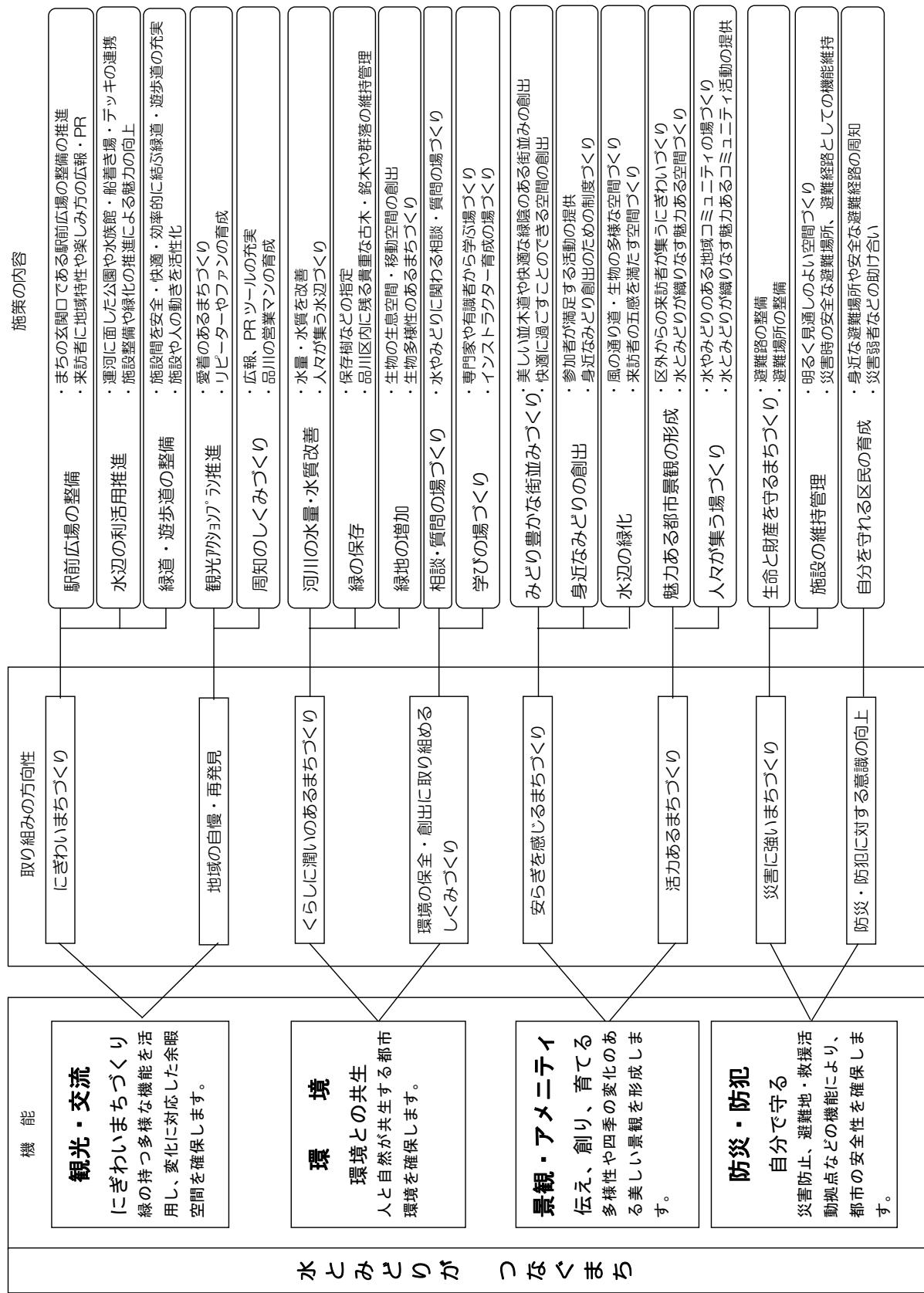
これらの取り組みを繰り返し積み重ねていくことで、「新・水とみどりのネットワーク構想」に関連する施策が充実します。

4つの機能はそれぞれ連携しており、一つ機能の向上は他の機能の向上につながります。そして、4つの機能を向上させることで、「ひと」「もの」「しきみ」「情報」のネットワークも強化されます。

「水とみどり」が有する4つの機能の充実は、品川区にある資源を一層の活用を促し、潤いのある安全な住みやすいまちづくりに貢献します。



## ■「新・水とみどりのネットワーク構想」の施策の体系



## 6.2 主要プロジェクト

「新・水とみどりのネットワーク構想」の充実に資する既存の事業を紹介します。

### 観光・交流：『歩けば歩くほど味がでる 通いたくなる品川ウォーク』

- ・品川区内の資源をネットワーク化した魅力的なまちの巡り方を創出する快適なまち歩きの支援

### 環境：『蝶の道プロジェクト』

- ・蝶の食草を植え、品川区に蝶を増やしていくという試み

### 景観・アメニティ：『しながわ花海道プロジェクト（勝島運河の整備）』

- ・勝島運河の護岸への自主的な花の植え付けと育成管理

### 防災・防犯：『都市防災不燃化促進事業（戸越公園一帯）』

- ・災害時の広域避難場所として整備
- ・平常時には区民の憩いの場として活用

事業名	歩けばあるくほど味がでる 通いたくなる品川ウォーク			
体 系	人づくり	仕組みづくり	ものづくり	情報発信
機 能	観光・交流	環境	景観・アメニティ	防災・防犯
事業 主体	品川区 しながわ観光協会	関連組織	品川区	
概 要	品川区内の資源をパッケージ化した魅力的なまちの巡り方を創出するとともに、快適なまち歩きを支援する仕組みづくりに取り組みます。			
内 容	<p><b>■通好みのまち歩きメニュー、ルートづくり</b></p> <p>品川区には、誰もが楽しめる資源だけでなく、一部ながらも「通の人」に評価される資源も埋もれています。それらの資源の見せ方、体験のさせ方、もてなし方を磨くとともに、それらを巡る品川ならではのテーマ性をもったウォーキングルートの開発を行います。</p> <p>大小長短様々な品川の歩くルートの開発には、区民自らが地域の隠れた資源・魅力を再発見することで、区内地域それぞれで個性的資源の発見とルート化に結びつけます。内外に品川の観光をアピールするイベントと同時に、区民の参加と意識向上を兼ねた、ウォーキング大会を実施します。</p> <p>それらの取り組みの中からボランティアガイドの発掘や、地域に根ざしたイベントの実施、もてなしの心の醸成を図ります。</p> <p><b>■通好みのまち歩きルート案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>しながわの食 くべく・もぐもぐルート</b> ⇒品川駅、品川港、品川そばなどを、歩きつつ品川の食を堪能するルート □品川善庵 <a href="http://www.sinkan.jp/index.html">http://www.sinkan.jp/index.html</a></li> <li><b>しながわの水辺と海上散策</b> ⇒品川の新しいウォーターフロントと途中、屋形船による海上散歩を組み合わせたルート □屋形船 </li> <li><b>しながわ鉄道海潮ルート</b> ⇒新幹線からJR、東急線まで、停車場見学も組み入れた鉄道ファン必見ルート □JR東日本東京総合車両センター </li> <li><b>しながわ文化の通りルート</b> ⇒品川の美術館や歴史的建築などを立ち寄りながら廻るルート □CIO美術館 <a href="http://www.sinkan.jp/index.html">http://www.sinkan.jp/index.html</a></li> <li><b>しながわ歴史探訪ルート</b> ⇒品川の神社仏閣にまつわる歴史やいわれを学ぶルート □江戸六地蔵第一番(品川寺) </li> <li><b>しながわ良いとこ取りルート</b> 30分、1時間、3時間、半日、1日など、所要時間で区切ったルート □ガイド品川 港内風景 <a href="http://www.sinkan.jp/index.html">http://www.sinkan.jp/index.html</a></li> </ul>			

事業名	蝶の道プロジェクト			
体 系	人づくり	仕組みづくり	ものづくり	情報発信
機 能	観光・交流	環境	景観・アメニティ	防災・防犯
事業 主体	品川区 蝶の道推進協議会	関連組織	品川区	
概 要	蝶の一般的な行動範囲と言われる 200~300m を単位に「蝶のレストラン（食草園）」をつくり、蝶の飛び交うエリア「蝶の道」を広げていくプロジェクトです。			
内 容	<p>「蝶の道プロジェクト」は、勝島運河「しながわ花海道」のジャコウアゲハを保護する活動から発祥したもので、地域の環境改善を進めることで都市の自然を再生させ、子ども達には蝶を育てる体験を通じて命や自然の大切さを伝えることが目的です。</p>  <p>【生き物たちと共生できる環境づくり】</p> <p>チョウのレストランを作って、生き物たちと友だちになろう。</p> <p>みんなで、チョウのレストランをつくるってみよう。 チョウたちがいる所は、自然が保たれています。 いろいろな虫や花をふやして、自然をつくろう。 小さな命を大切にしましょう。 チョウの産卵や羽化を観察しよう。</p>  <p>蝶の道推進協議会 / 品川区</p> <p>蝶の道推進協議会（事務局 環境情報活動センター）TEL：03-5742-6533 品川区環境課 TEL：03-5742-6755</p> <p>平成 18 年度までに、品川火力発電所、品川清掃工場、しながわ花海道、八潮団地、大井第一小学校、鮫浜小学校、立会小学校、第四日野小学校、浜川小学校、八潮小学校、浜川中学校、二葉幼稚園、ゆたか保育園、後地児童センター、大井倉田児童センター、水神児童センター、滝王子 児童センター、三ツ木児童センター、ゆたか児童センターにて、プロジェクトを実施しました。</p>			

事業名	しながわ花海道プロジェクト			
体 系	人づくり	仕組みづくり	ものづくり	情報発信
機 能	観光・交流	環境	景観・アメニティ	防災・防犯
事業 主体	品川区	関連組織	立会川4商店会、しながわ観光協会、ボランティア、区民	
概 要	「勝島運河の土手に花畠をつくろう」を合言葉に、春は菜の花・夏はひまわり・秋はコスモスと季節を代表する花の種をまき、きれいな花を咲かせています。			
内 容	<p>しながわ花海道プロジェクトは、「勝島運河の土手に花畠をつくろう」を合言葉に、立会川4商店会・しながわ観光協会などが平成14年7月から活動を行っています。</p> <p>勝島運河の土手約2キロには、1.5m四方の区画が約1200枚あります。その区画を、地元住民の方々や地元小中学校の生徒たち、企業の方々などが、それぞれ自分の畠のつもりで種をまき、花を育てています。今では、春は菜の花、秋はコスモスが咲き誇るようになり、「花海道」と呼ぶにふさわしい美しい光景が広がっています。</p>      			

事業名	都市防災不燃化促進事業（戸越公園一帯）			
体 系	人づくり	仕組みづくり	ものづくり	情報発信
機 能	観光・交流	環境	景観・アメニティ	防災・防犯
事業 主体	品川区	関連組織	品川区	
概 要	避難地、避難路、延焼遮断帯の周辺において、建築物の不燃化を促進することにより、大規模な地震などに伴い発生する火災に対して、住民避難の安全性の確保と市街地大火の延焼の遮断・遅延を図ります。			
内 容	 <p><b>国文学研究資料館跡地</b> 既存の自然を生かしながら、防災拠点となる公園として整備する。</p> <p><b>特別区道V-3号線</b> 外周道路整備後、公園内園路として、人にやさしい道路に再整備する。</p> <p><b>戸越体育馆</b> 移転時には、跡地を公園として整備し、公園の一体化を図る。</p> <p><b>公共施設等</b> 地区計画等の手法により、既存施設の移転後、公園として整備</p> <p><b>戸越小学校</b> 統廃合等で移転した場合、跡地を公園として整備し、公園に一体化を図る。</p> <p><b>既存公園部分</b> 既存の自然を生かしつつ、防災機能の拡充を図る。</p>			
	 <p>耐震化した橋の渡り初め</p>  <p>災害に備えて耐震化した橋</p>			

## 6.3 施策の機能別展開

ここでは、「新・水とみどりのネットワーク」が持つ4つの機能ごとに、現況と課題を整理し、今後進めるべき施策の方向性を示します。

### 6.3.1 観光・交流

**施策の方向性：緑の持つ多様な機能を活用し、変化に対応した余暇空間を確保します。**

#### (1) 現況と課題

自由時間の増大、価値観の多様化、交通体系の発展などに伴い、国民の余暇活動は多様化・広域化しています。また、都市化の進展に伴い、自然との触れ合い志向・健康への関心・コミュニティ意識の高まりなど余暇需要は変化しています。

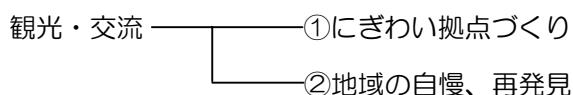
品川区には、歴史に登場するような名所旧跡や伝統文化・水辺の空間・水族館・活気ある商店街など、各地域に魅力的な観光資源が多数存在しています。

また、東海道新幹線品川駅の開業や、りんかい線の開通などにより交通の利便性も高くなっています。区民にとっても観光客にとっても、どこからでも気軽に訪れることができるようになっています。

しかし、様々な観光資源の中には、その価値が十分に認識されていないものや案内が不十分であるもの、不便な場所にあるものなど、顕在化していないものが数多く存在します。

そこで、見せ方や伝え方の工夫、他の観光資源との連携、ホームページやイベントなどの広報啓発活動などを通して、新たな魅力を広く発信していくことが重要です。

#### (2) 施策の体系



### (3) 施策の概要

#### ①にぎわい拠点づくり

市街地再開発や大規模建築物の建替え・更新の際に、公開空地や提供公園広場を活用した民地内のポケットパークなどのオープンスペースの創出に努めます。

また、観光・交流拠点としてのみどり空間の一層の拡充のために、公園の新設・拡充に努め区内の全地域で均衡のとれた公園配置を図ります。

併せて、道路や鉄道の立体事業によりオープンスペースとなる軌道敷跡地や幹線・補助幹線道路の植栽可能な場所を緑化し、「緑のみち」として快適な歩行者空間の整備を図るとともに、災害時の安全性の向上を図っていきます。

さらに、こうした観光・交流拠点や、「緑のみち」などに、統一したデザインの案内サインの設置を推進するなど、観光交流資源をアピールするための施策を進めています。

#### 主な施策

- ・ 水辺の利活用についての話し合い
- ・ 公園整備、改修、維持管理
- ・ 緑道整備事業
- ・ 駅前広場整備
- ・ 親水護岸整備事業

#### ②地域の自慢・再発見

区民や来訪者が品川区に愛着を感じられるように地域の歴史や景観スポット・散策ルートなど、身近で役にたつ情報を提供します。

また、品川区を訪れる人たちが望んでいる情報を、適時・的確に入手できるよう、品川区の魅力をホームページやパンフレットなどの情報媒体を用いて提供します。

#### 主な施策

- ・ 観光アクションプラン推進事業
- ・ ウォーキングマップづくり

### 6.3.2 環境

施策の方向性：人と自然が共生する都市環境を確保します。

#### (1) 現況と課題

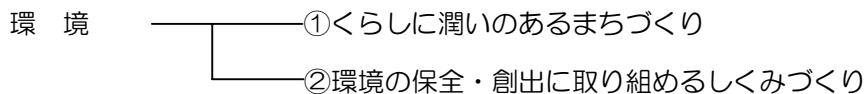
「水やみどり」は、二酸化炭素の吸収・大気の浄化などを通じて、ヒートアイランド現象や大気汚染などを緩和する機能を持っています。

品川区内においても、都市空間の高密度利用による近隣公害やヒートアイランド化、大気汚染や騒音・振動問題などが顕在化しています。

こうした状況の中、区民の健康と生活環境を守っていくためには、こうした問題を改善していく機能を持っている「水とみどり」が果たす役割は大きく、その保全・創出は重要な問題です。

また、生物の繁殖地・生息地を提供したり、海や郊外から清涼な風を都市に送りこむ「風の道」を形成するなど、人が快適に生活したり自然と共生できるような都市環境を形成する機能も持っています。

#### (2) 施策の体系



### (3) 施策の概要

#### ①くらしに潤いのあるまちづくり

市街地や土地利用の転換が望まれる地域において、地区計画や市街地再開発などのまちづくり事業が行われる際に、オープンスペースの確保や緑地・生物の生息空間の拡大を図ります。

また、広く「区民・企業」に対して、環境負荷の低減や環境改善に向けた取り組みなどについて、意識啓発を行っています。

#### 主な施策

- ・ 打ち水大作戦
- ・ 川の日の大掃除
- ・ 蝶の道プロジェクト
- ・ マイガーデン（区民農園）運営
- ・ 屋上緑化
- ・ 涼しさ回復プロジェクト
- ・ 樹木の保存事業
- ・ 雨水流し抑制事業
- ・ 河川維持・浄化対策

#### ②環境の保全・創出に取り組めるしくみづくり

地域緑化の担い手である区民への啓発活動を継続的に実施し、民間施設の緑化を促進するとともに、町会・自治会などの地域単位で、苗木の配布や自主的な活動への支援など、緑化推進施策を総合的・重点的に実施します。

#### 主な施策

- ・ ECO イベント
- ・ 緑化啓発・普及事業
- ・ エコスクール事業
- ・ 緑化相談
- ・ 品川区環境情報センター運営

### 6.3.3 景観・アメニティ

**施策の方向性：多様性や四季の変化のある美しい景観を形成します。**

#### (1) 現況と課題

「水とみどり」は、気候・風土に応じて地域を特徴づけ、四季の変化を実感させる快適な生活環境や美しい景観を創出します。

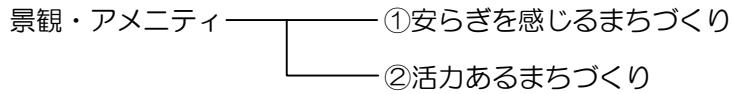
また、「水とみどり」を適切に配置し、地域の特性に合わせて有効に活用することにより、個性豊かな魅力あふれる地域づくりを進めるための貴重な資源になります。

品川区は、歴史的背景や地理的条件などから、数々の魅力ある景観を有しています。

歴史的な価値の高い由緒ある数々の寺社や公園、再開発事業によりビル群の中に新たに生まれたオープンスペース、豊かな自然環境が保全されている場所、庶民的で活気あふれる商店街など、多彩な顔を見ることができます。

今後は、こうしたそれぞれの地域が持つ個性を活かして、安らぎを感じられる生活空間を保全・創出したり、活力あふれる生活空間づくりを通して、区民にとって愛着の感じられる景観づくりを進めていくことが重要です。

#### (2) 施策の体系



### (3) 施策の概要

#### ① 安らぎを感じるまちづくり

品川区は、内陸部では住宅地や商店街などに囲まれるようにして歴史を感じさせる町並みや寺社・建造物などが点在する一方、臨海部では広大な水辺空間が広がっています。

こうした町並みや水辺空間は、生活に安らぎやゆとりを与えてくれます。また、人々が日常的な生活を送る住宅地も、その生活に安らぎや潤いを与えてくれる空間でなければなりません。

そこで、それぞれの地域が持つ景観・地域特性に併せながら、更にその魅力の向上につながるような形で「水とみどり」を活用していく必要があります。

##### 主な施策

- ・ みどりと花のボランティア
- ・ みどりの協力員・みどりの講座
- ・ 園芸講座
- ・ みどり豊かな街並みづくり助成事業
- ・ 公園・児童遊園の維持管理
- ・ 河川護岸の緑化推進
- ・ 道路緑化

#### ② 活力あるまちづくり

駅前や商店街などの人々が集まる場所では、それぞれが持つ地域特性や独自の活動・取り組みなどに配慮しながら、その地域を活性化させる重要な空間である「水とみどり」を上手く活用することで魅力アップにつながるにぎわいづくりに努めます。

##### 主な施策

- ・ 花と植木の即売市
- ・ 街角花壇維持
- ・ しながわ花海道プロジェクト
- ・ 都市景観形成事業・景観計画

### 6.3.4 防災・防犯

**施策の方向性：災害防止、避難地・救援活動拠点などの機能により、都市の安全性を確保します。**

#### (1) 現況と課題

緑地は、大地震や大火災が発生した際に避難場所・避難路として、また延焼遮断帯として重要な役割を果たしてくれます。

品川区内には、住・工・商混在型の密集住宅地が全域にわたって広がっています。

東京都が実施する地域危険度調査においても、危険度が高い地域が何ヶ所もあるなど、密集住宅地の防災性の向上が、区にとって極めて重要な課題になっています。

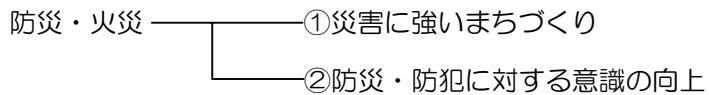
水辺空間は、災害発生時の交通手段として、また物資運搬ルートとして重要な役割を果たすことが予想されます。

近年になり、再開発事業などにより防災に配慮したまちづくりが行われるとともに、不燃化促進事業などを通じて、建物の耐震・不燃化が進められています。

こうしたことから、「水辺空間」や「みどり空間」を適切に配置することは都市の安全性・防災性を高めることにつながります。

しかしながら、いまだに多くの地域では木造家屋が密集し、道路や緑地などのオープンスペースが不足し、災害時の危険性が解消されていない状況にあります。

#### (2) 施策の体系



### (3) 施策の概要

#### ① 災害に強いまちづくり

道路、鉄道などの都市施設の整備に併せて、緑地や街路樹の整備を行い、それらの都市施設が災害発生時に安全な避難路となるよう努めます。

また、遠距離避難区域を解消するため、広域避難場所や避難経路となる道路の整備を進め、併せて沿道建築物の不燃化を進めて市街地火災の延焼拡大を防止していきます。

避難場所として位置づけられている公園では、耐火性の高い樹木の植樹や広場空間の確保などを通じて防災性能を強化し、防災拠点としての機能の充実を図ります。

さらに、河川・運河沿いには、道路や鉄道が災害によって利用できなくなった際に備え、被災時の交通拠点、物資運搬拠点として活用できるように、防災船着場の整備を進めています。

#### 主な施策

- ・ 密集住宅市街地整備促進事業
- ・ 防災生活圏促進事業
- ・ 防災船着場の整備
- ・ 都市防災不燃化促進事業

## ②防災・防犯に対する意識の向上

災害発生時に区民が安全・迅速に避難や防災活動を実施するためには、日頃から広報や防災教育を通じて区民の防災意識を高めるとともに、防災に対する知識の普及・啓発を図っていく必要があります。

そのために、日常の訓練などに利用できるような広場を身近な場所に整備していきます。

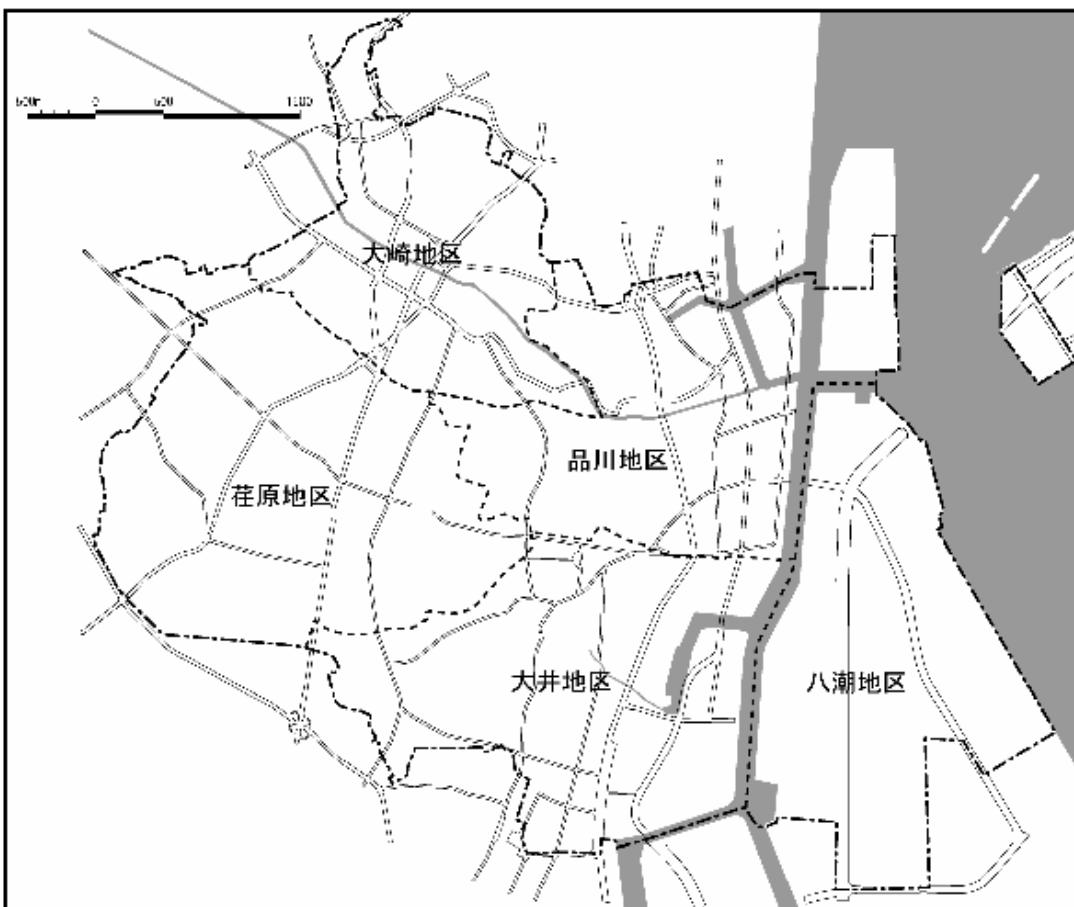
また、防災関係機関などの協力を得ながら、地域での防災訓練・避難訓練や研修会などを通して、各地区防災協議会および防災区民組織の活性化と対応力をより一層向上させるとともに、パンフレットやマニュアルによる情報の提供を継続的に行っていきます。

### 主な施策

- ・ 防災普及教育活動
- ・ 品川区防災センター運営
- ・ パンフレット、マニュアル作成
- ・ 防災広場の整備・維持管理

## 6.4 施策の地区別展開

この章では、区内を下図のように5つの地区に分け、それぞれの地区について、第2章において分析した「水とみどり」の現状・課題を踏まえた施策の方向性を示します。



【地区区分図】

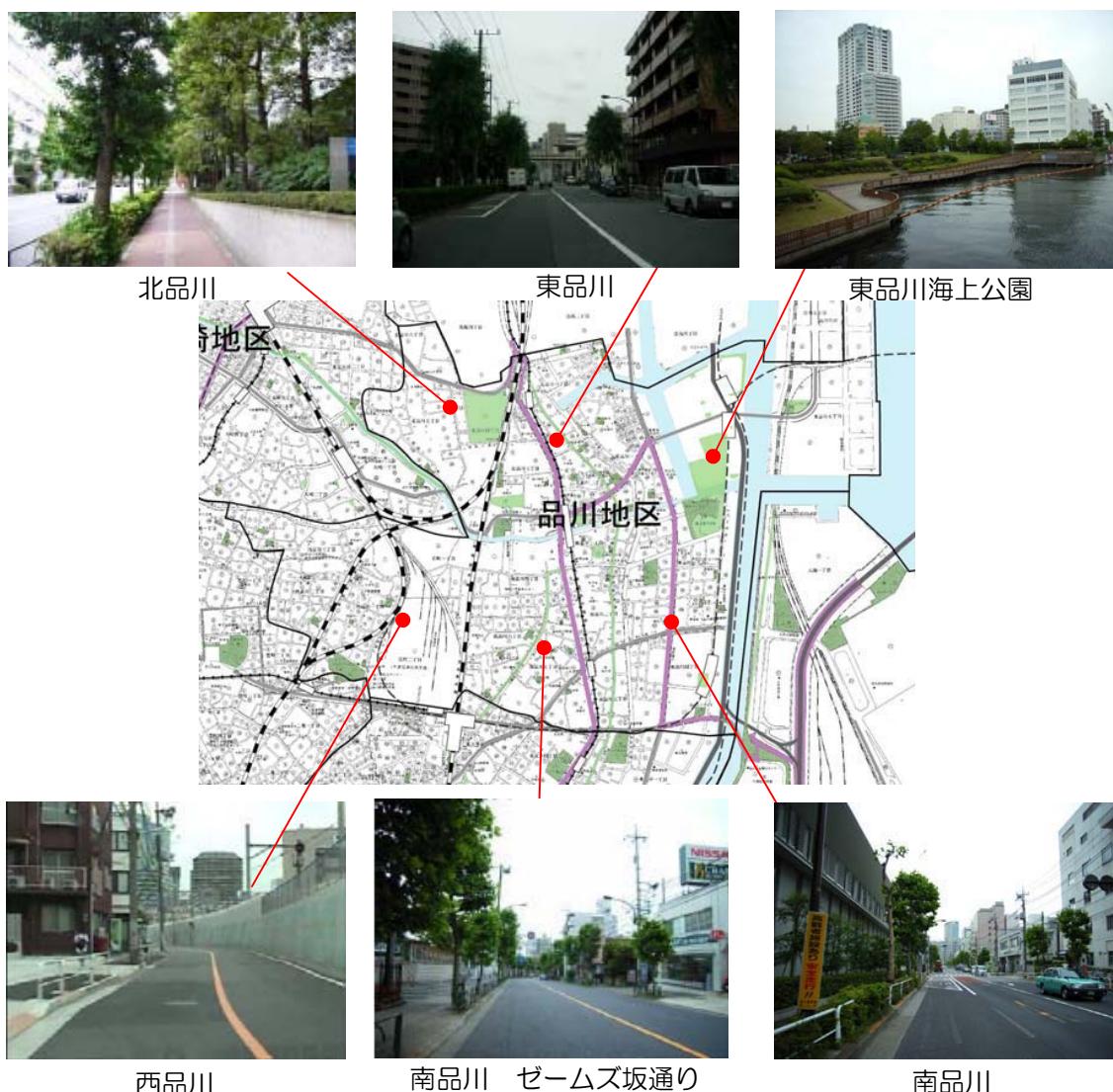
## 6.4.1 品川地区

### (1) 地区の概要

品川地区は、旧東海道一番目の宿場として栄えた歴史のある街であり、区内でも早くから市街化が進んだ地域です。江戸期をしのばせる史跡などの歴史的資源が豊富で、趣のある商店街が形成されています。

近年は、広大な工場跡地が大規模集合住宅やオフィスビルに建て替わったり、倉庫群が並んでいた地域全体が再開発事業により近代的なビル群に生まれ変わるなど、局所的に街の姿が大きな変貌を見せてています。

このように品川地区は、歴史のある典型的な住・工・商混在型の住宅地と近代的街並み、さらに火力発電所などの工場・倉庫が並ぶ臨海部と、多様な表情を見せる地域です。



## (2)水とみどりのネットワークの特性

### ①地区の課題

品川地区は、近代的な街並みと庶民的な既成市街地が混在する地域となっていますが、河川や運河に接していることもあります、「水辺空間」や「みどり空間」は質・量ともに比較的優れているといえます。

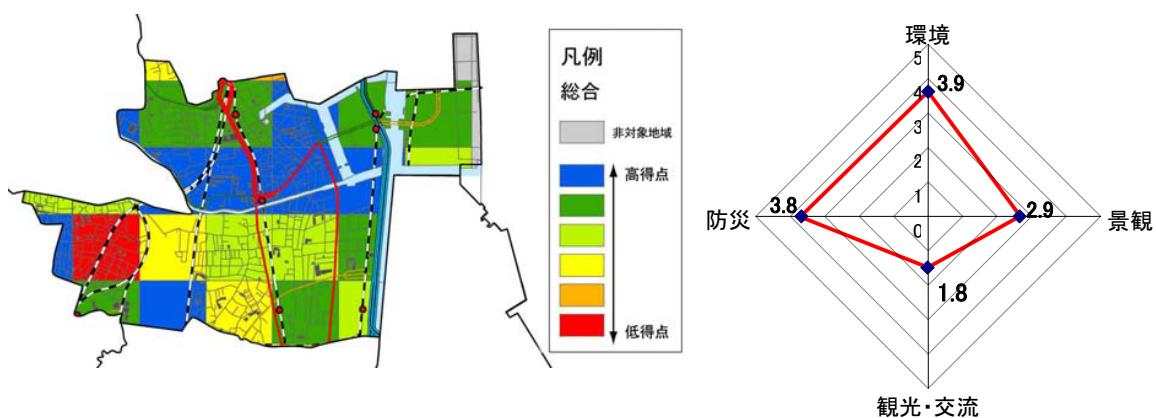
しかしながら、既成市街地に細街路が多い上に、幹線道路や鉄道、河川・運河によって地域が分断されており、地区内に点在する近隣公園・街区公園を結ぶネットワークは未発達な状態にあるといえます。

### ②総合評価

品川地区は、「水辺空間」や「みどり空間」が多く存在していることから、「水とみどりのネットワーク」を形成するための潜在性は高いといえます。

具体的には、「水とみどりのネットワーク」の拠点として位置づけられている「東品川海上公園」の整備が完了したことに加え、目黒川や運河沿いで再開発事業や街並み整備が進んでおり、「水とみどりのネットワーク」を形づくる資源が豊富にあることがあげられます。

総合評価では、南品川地区や西品川地域が住宅密集地帯であることから水辺や緑が少ない状況であることが伺えます。



### (3) 施策の概要

品川地区は「水とみどり」の資源が比較的充実していることから、今後は整備済みの水辺や公園・緑地の利活用やそれに携わるボランティアの育成など、既存の資源を活かすためのソフト面を充実させることが重要です。

また、地区の特徴の一つでもある河川・運河（目黒川、天王洲・京浜運河など）に親水護岸の整備を進めて、既設の公園・緑地などを結ぶネットワークを充実させていく必要があります。

さらに、機能面で充分ではないことが伺える「観光・交流」「景観・アメニティ」の両面において、区民と連携しながら、水上観光のための桟橋設置や船の誘致など、新たな施策を展開し、機能面での充実化を図っていく必要があります。

#### 主な施策

- 旧東海道周辺景観まちづくり
- 親水護岸の整備（目黒川、天王洲・京浜運河など）
- 目黒川の水質改善
- 水上交通のための桟橋設置、船の誘致
- 品川浦・天王洲地区運河ルネッサンス
- 再開発事業・地区計画（天王洲、品川シーサイド、北品川5丁目）



## 6.4.2 大崎地区

### (1) 地区の概要

大崎地区は、大きく3つの顔を持っています。大崎駅周辺は、その昔、大規模な工場が建ち並び、目黒川沿いは一大工業地帯を形成していました。

この地域は、昭和57年に大崎地区が副都心の一つに位置づけられたことから、駅をはさんだ両側で再開発事業が行われ、近代的な街並みの整備が進められています。

地区の中で北部に位置する上大崎・東五反田地域には、良質な住宅街が広がり、教育・文化施設や大使館が点在するなど、落ち着きのある街並みを作り出しています。

大崎地域や西五反田地域は、住・工・商混在型の密集住宅地帯で、趣のある商店街の残る庶民的な街並みが形成されています。



## (2) 「水とみどりのネットワーク」の特性

### ①地区の課題

大崎地区は、中央を流れる目黒川を軸に川沿いの低地部と両側の高台部に分かれています。街の姿は、近代的な街並みと密集住宅街が混在しており、「水とみどりのネットワーク」の資源となる「水辺空間」や「みどり空間」の質や量の差が大きい地区であるといえます。

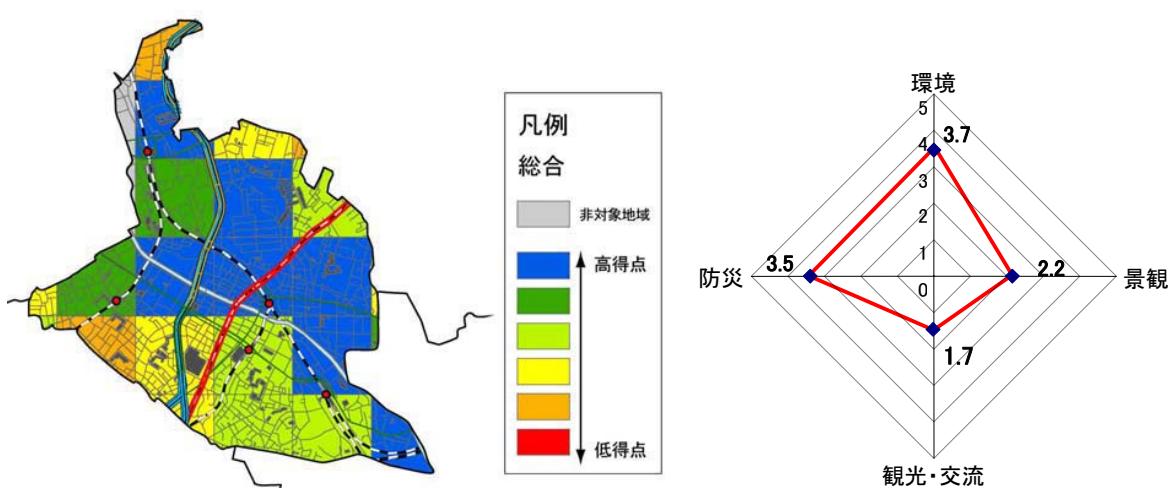
しかし、密集市街地では、「水とみどりのネットワーク」に資する資源を短期間で充実させることは困難です。

したがって、既存の公共施設・空間のリニューアルを通じてこうした資源を新たに創り出し、それらをネットワークの一部として積極的に活用したり、区民の自主的な緑化活動に対する支援や働きかけを通して、民有地をネットワークの一部に取り込む試みを進めていく必要があります。

### ②総合評価

大崎地区は、総合評価の高い地区と低い地区が混在する地区となっています。目黒川沿川は高評価ですが、その他の地域は低い評価となっています。

この理由として、目黒川や五反田駅周辺の再開発で商業施設や高層住宅の整備が進んで緑地や水辺の整備が充実しているのに対し、その周辺地域は昔からの密集市街地で再開発できないことや、公共空間が少なくオープンスペースが確保できないため、「水とみどりのネットワーク」の機能が4つとも不十分であることがあげられます。



### (3) 施策の概要

大崎地区は、エリアによって大きな違いのある「水とみどり」の格差を是正するために、とりわけ「みどり」の絶対量が不足している地域において、積極的にみどりを増やす必要があります。

これらの地域は、住宅が密集しており、公共施設や街路樹などの整備によって「みどり」の量を増やすことが難しいため、防災まちづくり事業と連携して接道部緑化（生垣・プランターなど）や屋上・壁面緑化を推進するために、支援・助成などソフト面の充実を図る必要があります。

一方、「水辺」や「みどり」の絶対量が豊かな地域においては保全を図るとともに、それらをネットワーク化するための施設整備などを進めていく必要があります。

特に「水とみどりのネットワーク」の主要軸線に位置づけられている目黒川沿いは、観光・交流や景観づくり、防災などネットワークが果たす多様な役割の面からも、親水緑道や桜並木などを早急に整備していく必要があります。

## 主な施策

- 親水公園の整備（東五反田）
- 防災不燃化促進事業（補助 46 号線品川地区）
- 目黒川親水護岸整備事業
- 大崎駅周辺地域 都市再生ビジョン 風の道の推進
- 目黒駅周辺地区（トライスクエア構想）再開発事業（東五反田二丁目、大崎駅東口・西口、西五反田 3 丁目）



### 6.4.3 大井地区

#### (1) 地区の概要

大井地区は、大井町駅を中心とした地域と、東側と南側に位置する東大井・南大井・勝島地域、西側の西大井地域の3つが異なる表情をしています。

大井町駅周辺は、明治後期に市街化が進み、大正時代までは大規模な工場が立地していましたが、昭和に入ると商業の中心地域へと変貌し、現在も品川区民の日常的な買い物の拠点として機能しています。

東大井・南大井・勝島地域は、かつては工場や倉庫などが立ち並ぶ地域でしたが、区画整理事業や市街地整備などにより、近年は中高層の集合住宅やオフィスビルへの建て替えが進み、事務所と集合住宅、戸建て住宅が混在する地域となっています。

一方、西大井地域は、西大井駅周辺で再開発事業により近代的な街並み整備が行われましたが、それ以外の地域ではまとまった都市基盤整備が行われていないため、戸建て住宅主体の市街地となっています。



立会川緑道



大井町駅



東大井



大井・緑道



西大井



大井



勝島運河



南大井

## (2)水とみどりのネットワークの特性

### ①地区の課題

大井地区は、駅周辺での再開発事業などによって生まれた近代的な市街地とそれを取り囲む既成市街地、さらに地域の東側に広がる運河沿いの空間に分かれています。

大井町駅や西大井駅の周辺では、再開発事業が進み近代的な都市景観が形成されており、とりわけ「観光・交流」や「防災・防犯」面で機能強化が図られています。

東大井・南大井・勝島地域は、集合住宅やオフィスビルへの建て替えの際に接道部の緑化などが図られるとともに、一部の運河沿い空間では区民が中心になって環境改善や景観づくりの取り組みが行われています。

一方、内陸部に位置する西大井地域は、細街路が多い住宅密集地となっており地域内には街区公園が点在しているのみで、「みどり空間」が果たすべき機能の面では、きわめて不十分な状態にあるといえます。

また、この地域において、ネットワーク網が脆弱な点も大きな課題です。

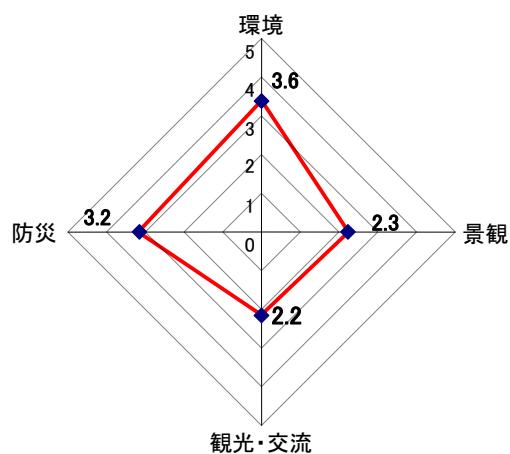
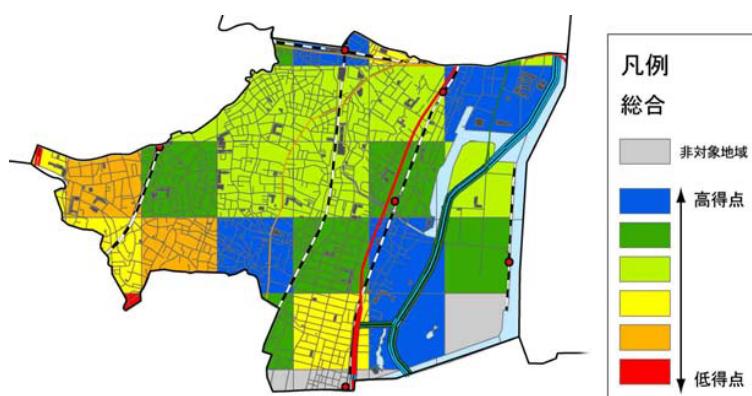
## ②総合評価

大井地区は、総合評価が平均的な地区が多い地域であるといえます。

ただし、東部の沿岸地帯は「水とみどりのネットワーク」機能が充実していて高得点ですが、内陸ほど得点が低い傾向があります。

この理由として、運河沿いは埋め立てによって開発が進んだため、工場や高層住宅・公園・広い道路が整備されていますが、内陸部は昔からの密集市街地が残っているため、再開発できないことや公共空間が少なくオープンスペースが確保できないため、「水とみどりのネットワーク」の機能が充分でないことがあげられます。

機能別にみると、大井地区の特徴は「観光・交流」機能が充分でないといえます。



### (3) 施策の概要

大井地区は、東側で勝島運河や立会川緑道など「水辺空間」や「みどり空間」が充実しており、さらに「水とみどりのネットワーク」の中心施設として位置づけられている「しながわ区民公園」があることから、地域内にネットワークづくりのための資源は充分にあるといえます。

今後は、既存の「水辺空間」や「みどり空間」の利活用やボランティア育成などのソフト面での充実を図る必要があります。

また、資源の乏しい西側地域の「みどり空間」の整備を進めながら、都市計画道路（補助 205 号線）や滝王子通りなど、東西を結ぶ「ネットワーク」となる緑道・街路の充実を図っていく必要があります。

#### 主な施策

- しながわ花海道プロジェクト
- 品川区環境情報センター運営維持
- 立会川の水質改善・浄化対策
- しながわ区民公園再整備
- 鮫洲ポンプ場上部公園整備
- 避難道路（滝王子通り）機能強化検討
- 広町地区開発構想（大井プレイス構想）



#### 6.4.4 荏原地区

##### (1) 地区の概要

荏原地区は、武蔵野台地の東南端、目黒台地に連なる場所に位置し、主に昭和に入ってから市街化が進みました。

この地区は、当初から住・工・商が混在した形で市街化されたため、土地区画整理事業が行われた区域が一部ありますが、大部分は都市基盤が不十分な密集住宅地が広がっています。

地区内には全国的に有名な商店街があり、さらに地区内を走る鉄道が立体交差化したことなどを受け、駅周辺に中高層住宅が点在するようになっています。また地区の北側・五反田に近い地域では工場から大規模なビルへの転換が行われています。



立会川緑道



荏原



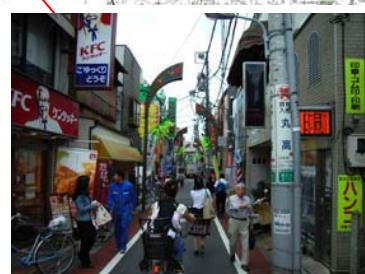
戸越



戸越公園



旗の台



旗の台商店街



中延

## (2)水とみどりのネットワークの特性

### ①地区の課題

荏原地区は、その大部分が密集住宅地であり、大規模な公園・緑地などが少ないため、「水とみどりのネットワーク」を形成するための「水辺空間」「みどり空間」といった資源はきわめて乏しいのが実情です。

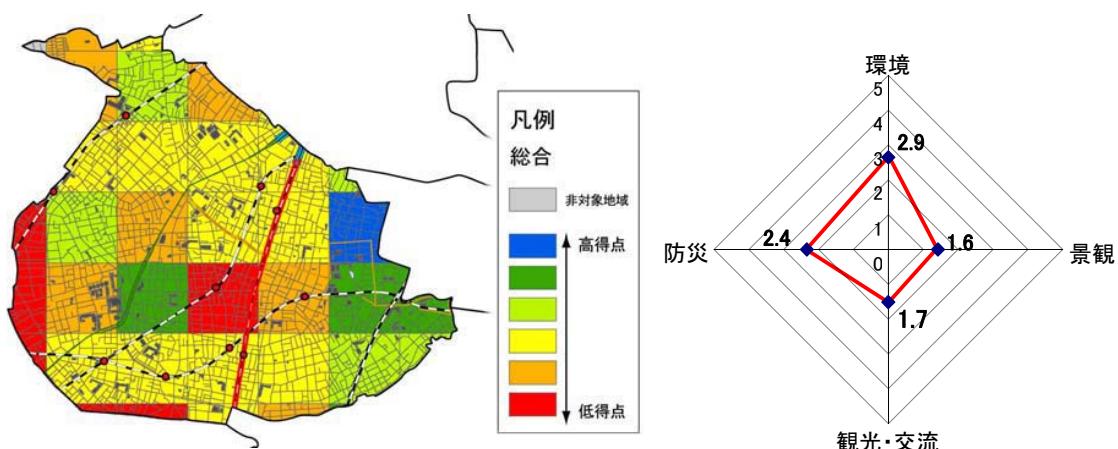
しかしながら一方で、地区内にあるいくつかの著名な商店街は、地区固有の景観を作り出すとともに、観光・交流の面で大きな役割を果たしています。

今後は、ネットワークの軸線や拠点となる「みどり空間」の整備を進めることが大きな課題です。また、区民と行政が協働・連携できるようなしくみ・体制をつくることも、この地区で「水とみどりのネットワーク」を形成するうえできわめて重要な課題となっています。

### ②総合評価

荏原地区は、全体的に総合評価の低い地区となっていますが、立会川緑道の通る地区は高得点となっています。

総合評価が低い理由として、荏原地区のほとんどの地区は、昔からの密集市街地で再開発できないことや、公共空間が少なくオープンスペースが確保できないため、「水とみどりのネットワーク」の4機能が充実していないことがあります。



### (3) 施策の概要

荏原地区は、公園・緑地などが少ない上に、ほぼ地区全体に密集住宅地が広がっているため、全域において「水とみどりのネットワーク」機能の充実を積極的に図っていく必要があります。

そのためには、公共空間においては、補助 26 号線、補助 30 号線といった都市計画道路や東急目黒線上部緑道などをネットワークづくりの軸線として、とりわけ「防災・防犯」の面から有効な公園・緑地などの整備を、軸線の交差点付近で進めることがきわめて重要です。

特に、ネットワークの拠点として位置づけている国文学研究資料館および戸越公園は、ネットワークの果たす機能の強化の面からも、周辺に点在する公共施設（学校、体育館、図書館など）を含めた再配置・再整備を進めることができます。

また、商店街や住宅地の中でのネットワーク整備を促進するため、区民レベルでの緑化活動を啓発・支援して、区民と行政が協働で「水とみどりのネットワーク」づくりを推進できるような体制やしくみをつくっていくことも有効です。

#### 主な施策

戸越公園周辺整備（国文学研究資料館跡地整備）
東急目黒線上部緑道整備事業
武蔵小山・西小山駅前広場整備事業
武蔵小山駅東地区街並み再生地区
都市防災不燃化促進事業（補助 46 号線品川地区）
密集住宅市街地整備促進事業（旗の台・中延地区）大井町駅東口第一地区再開発事業



## 6.4.5 八潮地区

### (1) 地区の概要

八潮地区は、昭和30年代に埋立によって生まれた場所を、昭和50年代に計画的・一体的に開発した地区で、京浜運河をはさんで品川地区・大井地区と隣接しています。

この地区の大部分は、火力発電所や清掃工場、JRなどの車両基地、貨物ターミナルやコンテナバースなど、港湾地域ならではの施設や輸送・物流の基地が立地しています。

一方、大井地区に隣接する地区西側の区域では、計画的なまちづくりの中で集合住宅の建設や都市基盤整備、みどり豊かな環境整備などが行われています。



## (2)水とみどりのネットワークの特性

### ①地区の課題

ハ潮地区は、その大部分を港湾施設や輸送・物流基地が占めていますが、住宅が立ち並ぶ地域では、緑豊かな環境が広がり、水辺が近くにあることが大きな特性になっています。

「水辺空間」や「みどり空間」などの資源が豊富にあり、運河や幹線道路沿いに緑道・公園が整備されるなど、ネットワークも充実しているといえます。

しかし、「水辺空間」でも水際に近づけない場所が多く、その改善がよりよいネットワークづくりのための課題となっています。

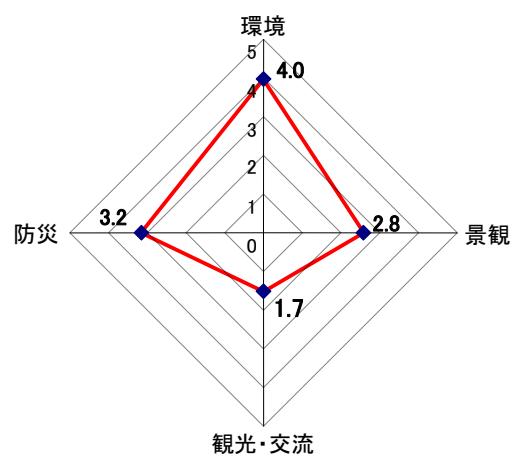
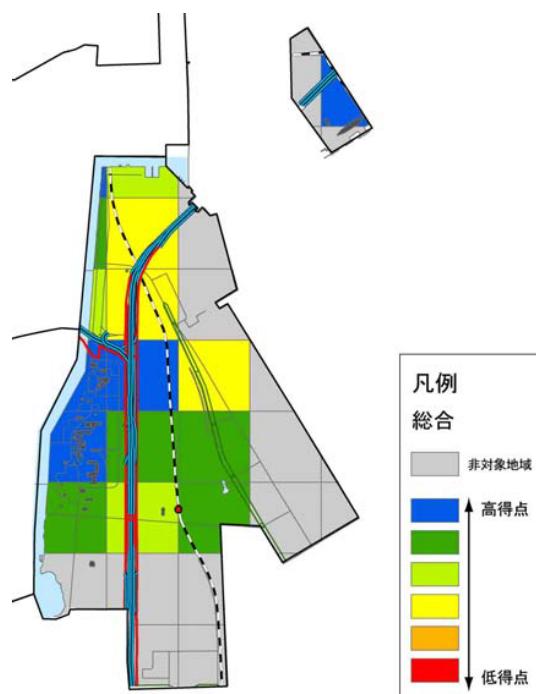
また、地区内に有効活用されていない広大なオープンスペースのネットワーク化や、運河によって分断されている内陸部との軸線を充実させることも重要な課題といえます。

## ②総合評価

ハ潮地区は、総合評価の高い地区が比較的多いことから、「水とみどりのネットワーク」の機能が充実しているといえます。

この理由として、埋め立てによって開発が進んだため、工場や高層住宅・公園・広い道路が整備され、「水とみどりのネットワーク」に関わる資源が豊富であることがあげられます。

機能別にみると、ハ潮地区の特徴は「観光・交流」機能が充分でないといえます。



### (3) 施策の概要

ハ潮地区は、「水とみどり」が豊かで機能面では充実していますが、立地条件のために交通アクセス機能が弱く、「観光・交流」機能を強化するための取組みが重要です。

整備済みの水辺・公園などを活用した行事・活動やボランティアの育成など、ソフト面での充実や活動に利用できる施設整備を図ったり、景観形成や生物多様性への配慮に先進的に取組んでいく必要があります。

さらに、京浜運河によって内陸部と分断されている陸上・海上のネットワークを接続するための事業を、ハードとソフトの両面から検討していくことも重要です。

#### 主な施策

- 京浜運河沿いの親水護岸整備
- ネットワーク形成に向けた水上交通の整備
- 運河沿い護岸の緑化推進



## 7. 施策の推進

### 7.1 施策の推進方針

これまで述べてきたように「新・水とみどりのネットワーク構想」では、従来の行政による施設整備を通じたネットワークづくりだけでなく、担い手である区民・企業と行政が連携して、「観光・交流」「環境」「景観・アメニティ」「防災・防犯」各視点から、「水辺空間」や「みどり空間」の整備や利活用についてのネットワークを作り出していくことを目指しています。

多様な担い手が自主的に、あるいは連携して「水とみどり」に関わる施策・活動を進めていくためには、それらを支える場や機会を活用していく必要があります。

「新・水とみどりのネットワーク構想」を推進するための施策・活動を支える拠点として、3つの「場」（考える「場」・つくる「場」・まもる「場」）を設け、「場」を利用して活動の活性化を図るとともに、担い手同士の協力・連携を進めてネットワークの充実を図っていきます。

また、「水とみどり」に関わる施策・活動には、すぐに始められるものから、実施までの相当の時間を要するものまであります。まず、既に行われている活動を継続・改善する形で実施できる「すぐに取組める活動」から始めます。

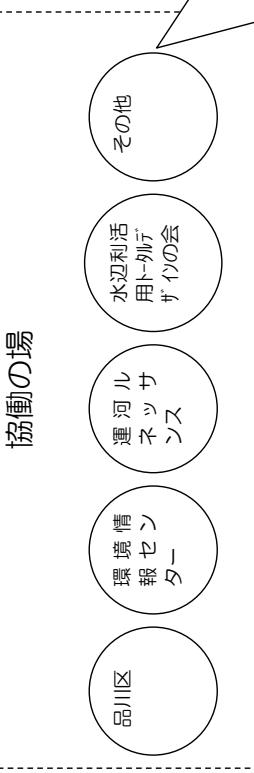
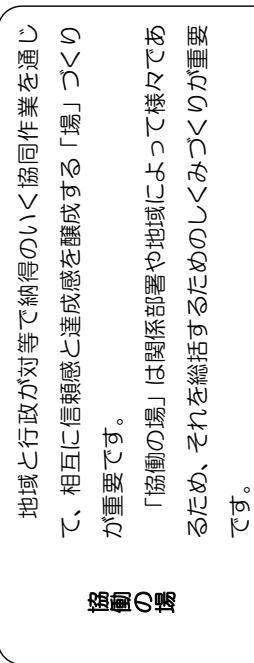
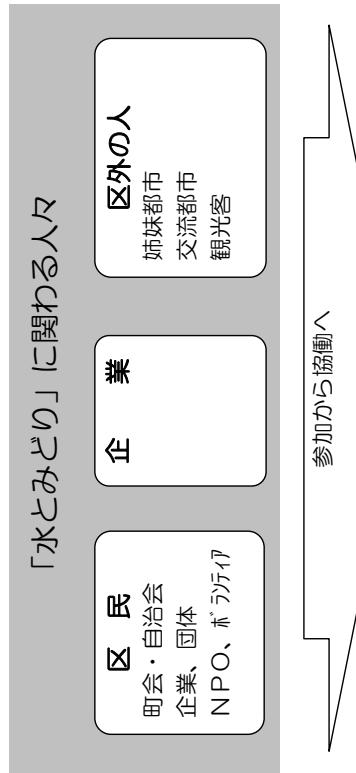
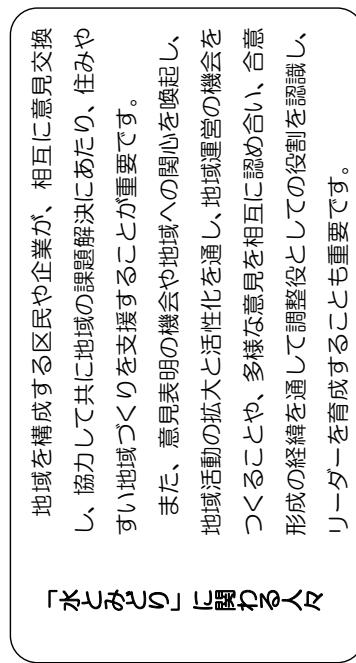
都や国との協議が必要なものや新たな制度の導入、法律・条例などの制定・改正が必要なものなど、「時間が必要な活動」については、スケジュールや目標達成年次などを設定し、取組み実現に向けた努力を継続していきます。

3つの「場」と取り組みの関係を整理し、施策を推進します。

	すぐにできる取組み	時間をかける取組み
考える「場」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水辺や緑地で行われている活動の方向性と改善点の確認</li> <li>・「水とみどり」に関連した活動などの広報啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存事業と「水とみどり」のネットワークの関連づけ</li> <li>・民有地・民間施設のネットワーク充実</li> <li>・管轄を越えた話し合いの場づくり</li> <li>・区民や町会・自治体、企業、NPOなどとの話し合いの場づくり</li> </ul>
つくる「場」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民と行政の連携事業の計画づくり</li> <li>・庁内関係部署の連携体制</li> <li>・花壇や公園の整備・改修</li> <li>・親水施設の整備・開放</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政管轄を越えた事業連携</li> <li>・区民・企業・民間団体と行政の連携した事業の創出</li> </ul>
まもる「場」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアなど民間活力の活用</li> <li>・講習会などの開催</li> <li>・苗木の配布</li> <li>・緑化助成制度の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水辺やみどり空間の保護・保全制度の充実</li> <li>・民間のアイデアや資金、マンパワーを活用した水辺や緑地の保全</li> </ul>

## 7.2 推進体制について

「新・水とみどりのネットワーク構想」を推進するためには、区民や町会・自治会、企業、NPO、ボランティアなどが開拓しやすくすることが重要です。そこで、以下に示すような協働の場を設け、参加・連携を図りやすくなります。この協働の場では、そこに参画した人たちが責任を持つて情報発信する機能を持つことで、参加・連携の拡大を通じて、構想推進のためのさらなる展開が図れるようになります。



**連携して取り組みます。**

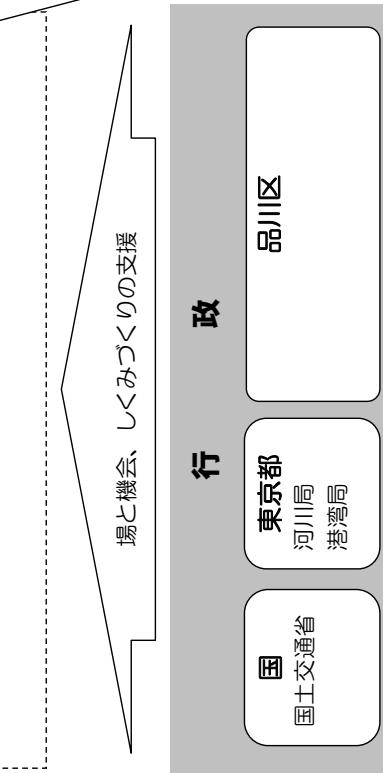
行政、区民、町会・自治会、企業などが「水とみどりのネットワーク」の意義について共通認識を持ち、創出・創出・維持管理する意識を醸成します。

「水とみどり」は私たちの生活に必要不可欠なものですが、しかし、その創出・維持には、費用も労力もかかります。子供や子孫のために「水とみどり」を充実させることを、行政、区民、町会・自治会、企業、NPOなどと共に認識を持つことが大切です。

**品川区が先導し、「水とみどりのネットワーク」を創出し、維持管理する事業を計画的に推進します。**

「新・水とみどりのネットワーク構想」の担い手は、品川区に関わる人すべてが対象となります。ただし、無秩序に水辺づくりや緑化を進めるのではなく、条例や規則などをベースに、参加者が「水とみどりに関する担い手」となり、共通認識のもと、共通の目標を目指し取り組む必要があります。

当面、品川区が先導し率先して推進しますが、徐々に活動者が主体性を持って取り組めるようになります。



品川区は、東京都や国と、協議・調整を図りながら、よりきめ細かく地域へ開拓するとともに、区民の主体性を尊重し、連携して構想を推進することが重要です。

また、施策や事業に応じて、様々な区民参加手法を実践することも重要です。

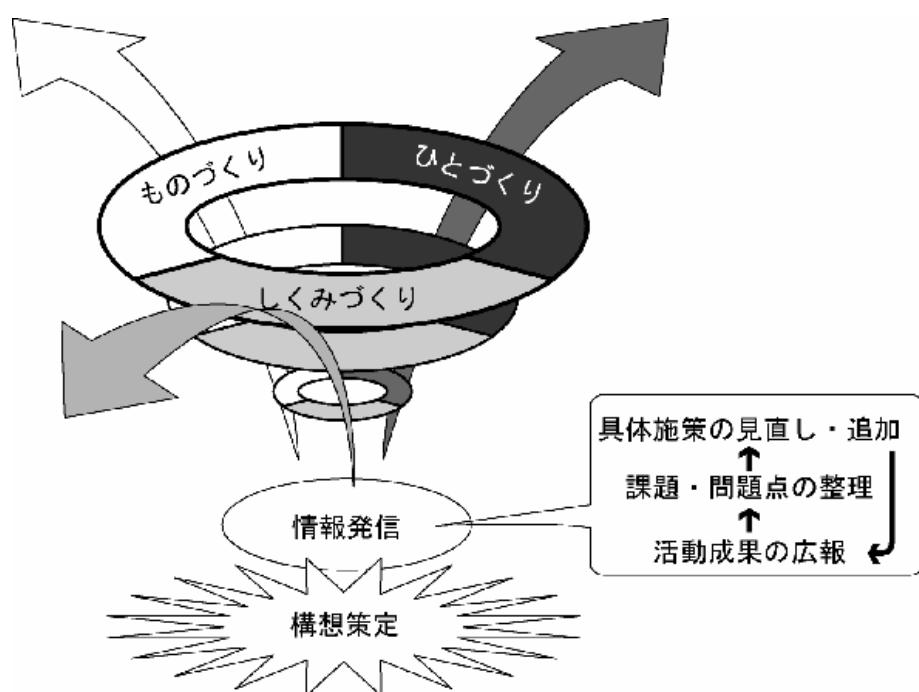
## 7.3 施策の推進

### 7.3.1 推進イメージ

「新・水とみどりのネットワーク構想」を推進するための事業は、「ひとづくり」「しくみづくり」「ものづくり」の3つの視点から総合的に施策を展開しながら進めることが重要です。

例えば、「観光交流」という施策には、観光振興に関わるひとづくり、交流を促すしくみづくり、これらを活性化する地域ブランド創設などのものづくり、これらが一体となって施策を推進することが大きな前進につながります。

また、各事業の取組みの輪を行政の枠から区民・企業・民間団体などへと広げるためには、だれもが活動状況を手軽に知ることができるよう、事業内容についての情報発信や普及・啓発活動を継続して行っていくことが重要です。



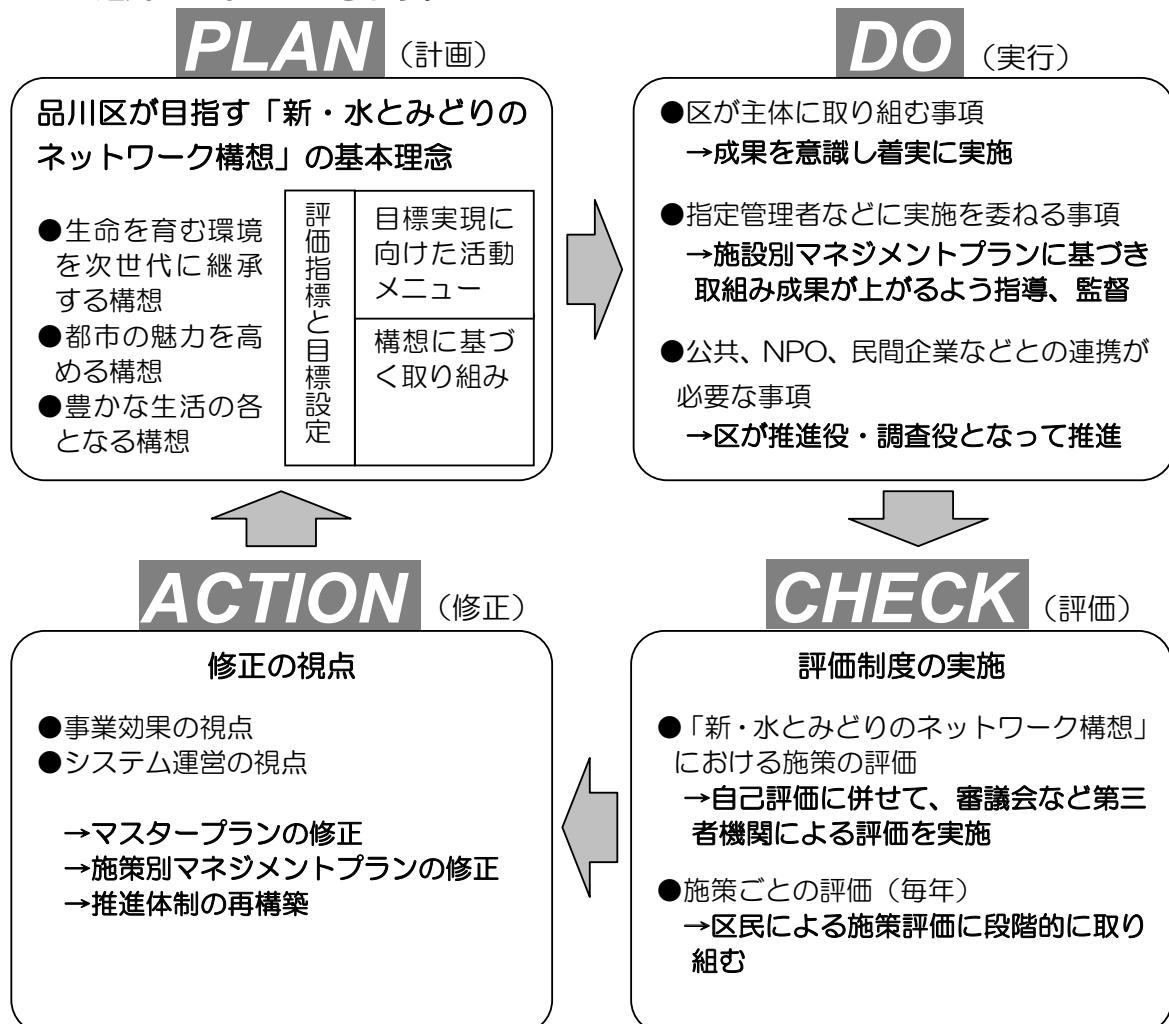
### 7.3.2 進行管理

「新・水とみどりのネットワーク構想」を有効かつ効率的に推進するためには、区民の意見や地域の状況に配慮しながら、区民参加などにより事業効果を評価する場を設置することが望ましいといえます。

ここには、定性的・定量的評価手法に基づいて開かれた評価を行ったり、区民の意見・要望や社会情勢などに応じて、構想の見直しについて提言するなどの機能を持たせるようにします。

また、本構想においては、どの程度計画目標が達成されているのかを「計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）→計画」というサイクル（PDCAサイクル）において継続的に確認していくこととします。

こうした評価・確認を通じて、計画・事業や施策全体の効果的かつ効率的な運用につなげていきます。



区民の主な役割は、計画づくりからの参加、行動計画の実行であり、第三者の評価のもと、施策の見直しなどに協力していただきます。

## 7.4 進捗状況・目標達成の確認方法

「新・水とみどりのネットワーク構想」を推進するための事業の進捗状況や目標達成状況は、「対指標評価」ならびに「参加者アンケート」などを用いて行うことが望ましいと考えられます。

「対指標評価」は、計画時に掲げた目標値に対して、その時点での事業の達成度を確認するもので、具体的な指標としては「事業量指標」「成果指標」「コスト指標」「活動指標」などがあげられます。

特に、「新・水とみどりのネットワーク構想」においては、事業を進める過程において、担い手同士が連携することによる相互作用を通じてその関係性が変容していく度合いや、担い手の主体性の育成・形成の度合いなどに焦点を当てていきます。

- 1) まちづくり活動や事業の結果としてのまちの変化や特性の評価  
(アウトプット指標)
- 2) まちづくりによって得られたまちの発展についての評価(アウトカム指標)
- 3) まちづくりが、どのようなプロセスで、また、どのようなマネジメントで行われてきたかというプロセスの適切性の評価
- 4) まちづくりのプロセスを通じた社会関係資本の増減、主体の関係性の変容、主体性の育成・主体形成の評価

具体的には品川区基本構想や長期基本計画との整合を図りながら、実施計画における目標達成度の確認を行います。

また「パブリックコメント」は、意見や感想、満足度や課題・問題点などについての意見を集めるなどの方法で行います。

直接、事業に携わっている人たちの声を聞くことで、その事業をより効果的・効率的な方向へ軌道修正を図ることができます。

## **新・水とみどりのネットワーク構想**

発行日：平成20年 5月

発 行：品川区

編 集：まちづくり事業部 管理工事課

住 所：〒140-8715 品川区広町2-1-36

電 話：03（3777）1111（代表）

協 力：株式会社 建設技術研究所